

神のみ声を聞く

Vol. 91, No.3

2015年7月-9月

目次

わたしに注意を向けてもらえますか？	5
実際に聞く	10
自然界における神のみ声	15
神の大使たち	20
教会における神のみ声	26
神のみ言葉を聞く	31
聖書をいかに学ぶか	36
識別力	41
頑なさに気をつけよ！	46
疑わずに聞く	52
神に聞くことについての歴史	57
イエスのご自分の御父に聞かれる	62
「主よ、お話してください」	67

セブンスデーアドベンチスト
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.91, No.3

編集&発行：
S DA改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 40-1045

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト : Harry Anderson
on the front cover; Map-
Resources on pp. 4, 51, and
back cover.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

今日、世の中には非常に多くの言葉がありますが、わたしたちは真理を見出すために、どちらを向けばよいのでしょうか。わたしたちはどのようにして、神のみ旨を知り、サタンの欺瞞に対して防御することができるのでしょうか。わたしたちが何を信じるかということは、本当に重要なのでしょうか。

『ただ律法と証詞とを求むべし、彼らの言うところこの言にかなわらずば晨光（しのめ：光）あらじ』（イザヤ書 8:20 文語訳）。神の民には、偽りの教師の感化と暗黒の霊の欺瞞的な力に対する防壁として、聖書がさし示されている。サタンは、人が聖書の知識を得るのを妨げるためにはあらゆる手段を用いる。なぜなら聖書の明白な言葉は彼の欺瞞を暴露するからである。神の働きが復興されるたびに悪の君は奮起していつそう激しく働く。彼は今やキリストとその信徒たちに対する最後の闘争に最大の努力を傾けている。まもなく最後の大きな欺瞞がわれわれの前に展開されようとしている。反キリストがわれわれの目の前で驚くべき業を行なうのである。偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。すべての言説や奇跡は、聖書のあかしによって吟味されなければならない。

神の戒めのすべてに従おうと努力する者は、反対と嘲笑に会うであろう。彼らは神のうちにあるときにのみ立つことができる。彼らは目の前にある試練に耐えるためには、み言葉の中に示されている神のみこころを理解しなければならない。彼らは、神のご品性、統治、御目的について正しい理解を持ち、それに従って行動するときのみ、神をあがめることができる。聖書の真理によって心を堅固にした人たち以外には、だれも最後の大きな争闘に耐え抜くことはできない。わたしは人に従うより神に従うべきかという鋭い質問が、一人一人に臨むであろう。その決定の時は今、目の前に迫っている。われわれの足は、変わることはない神のみ言葉という岩の上に、しっかり立っているだろうか。われわれは、神の戒めとイエスの信仰をとりとして、堅く立つ用意ができているだろうか。」（各時代の大争闘下巻 358, 359）

「神のみ声はそのみ言葉を通してわたしたちに語りかけている。そして、わたしたちが聞く声は数多くある。しかし、キリストはわたしたちに『ここにキリストがいる、あそこにキリストがいる』と言う人々に注意するように言われた。そうであれば、わたしたちはすべてを聖書に照らさずに、どうして彼らが真理を持っていないことを知ることができるだろう。」（信仰と行い 55）

「神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。」（各時代の大争闘下巻 360）

全般的にはプロテスタントのクリスチャンとして、また厳密にはセブンスデー・アドベンチストの改革者として、わたしたちの嗣業は、神のみ言葉は他のすべてにまさって尊ばれるべきだという堅い信念に基づいています。読者がその生活のあらゆる面において、神のみ声を識別し、理解し、従うために、この一連の教科が助けとなるようにというのが、わたしたちの祈りです。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

ハンガリーの教会の改築のために

ハンガリーは、中央ヨーロッパにある内陸の国で、およそ人口 1000 万人、そのほとんどはカトリック教を奉じています。改革のメッセージは、ヨーロッパにおける改革運動のごく当初より、この小さな国に存在していました。1990 年以来、わたしたちは宗教の自由を大いに享受してきました。しかしながら、最近、政府の法令が、わたしたちの地位を認可された教会から宗教的集会へ変えました。これにより、わたしたちに新しい制限が課せられることになりました。



1990 年以前は、わたしたち信徒は、共に個人の家庭で礼拝していました。しかし、共産主義時代に政治的な抑制が解除されてから、わたしたちは神の礼拝のために家を買うか、建てるかすることに決めました。1992 年、わたしたちは、首都であるブタペストから 20 キロのところにあるモギョロド (Mogyoród) に新しい教会の複合施設を建設しはじめました。ハンガリーの信徒たちは、献金において忠実で、働きにおいて勤勉でした。神の恵みにより、1995 年にはこの施設で、国際青年集会を催すことができました。二回目は 1997 年に、三回目は 2001 年に開催されました。今日、わたしたちの地域伝道プログラムへの来客の人数が増えました。施設はまたわたしたちが毎週開催する菜食料理コースのためにも使用されています。この料理コースは 10 年以上定期的に開催され、実に一般に広く知られるようになりました。しかしながら、礼拝堂を含むこの建物は、17 年間使用し、敬神的な礼拝の場所にふさわしいものとするためには改築が必要になっています。

わたしたちにはまた、困窮している年配の兄弟姉妹に住まいを提供する施設もあります。この施設には礼拝の場所もありますが、建物は非常に古く、改築が必要になっています。ここの兄弟姉妹は本当に惜しみなく献金していますが、この働きを成し遂げるのに十分な資金がありません。

そこで、世界中の兄弟姉妹、友人方に、2015 年 7 月の第一安息日献金には、できる限り惜しみなく献金してくださるようお願いいたします。わたしたちが神の栄光と誉れのために、この施設を使用し続けることができるように、この事業のために献金してくださる皆さんを残らず、神が祝福してくださいように。

皆さんの惜しみない心を感謝いたします。

ハンガリーから皆さんの兄弟姉妹より

わたしに注意を向けてもらえますか？

「わたしが、ぶどう畑になした事のほかに、何かなすべきことがあるか。」（イザヤ 5:4）

「神は、死よりも強い愛をもって、地上の子らに思いをかけておいでになる。神がひとり子をお与えになったということは、全天をそそぎだして、一つの賜物としてお与えになったということなのである。救い主の生涯、死、その執り成し、天使の奉仕、聖霊の懇願これらいっさいのものを通じて働いておいでになる父なる神と、天の住民たちの絶えざる関心などが、ことごとく人の救いのために力をそえている。」（キリストへの道 20）

推奨文献：サインズ・オブ・タイムズ 1889 年 4 月 15 日

日曜日

6 月 28 日

1. 神との会話

a. 神は人との伝達を望んでおられるでしょうか（使徒行伝 17:27; イザヤ 65:1）。

「神は、限りない愛をもって人類をみ心にかけ、いつでも私たちが求めたり思ったりする以上に与えようとしておいでになるのに、誘惑にさらされているあわれで無力な人間が格別祈ることに努めず、信仰のうすい様子をみて天使たちはいったいどう思うことであろう。天使は神のみ前にひざまずき、神のみそばにはべることを好み、神と交わることをこの上ない喜びとしている。それなのに、神のほか与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖霊の光も神の臨在も仰がず、満足して日を送っているように思われるのである。」（キリストへの道 128, 129）

b. 神はわたしたちの内どれくらいの人と、個人的に通じたいと思っておられるでしょうか（ヘブル 8:11; 詩篇 4:3（下句））。

「救い主は、ご自身の血で買われた魂を、限りないやさしさをもってごらんになる。彼らは主の愛によって当然主のものである。主は彼らを言うに言われぬ熱望をもってごらんになる。」（各時代の希望中巻 324）

2. 神は献身した人々に語りたいと望んでおられる

- a. 神はモーセとどのように語られましたか(出エジプト記 33:11 (上句))。神が顔と顔を合わせて語られたとき、モーセはどのような人でしたか(民数記 12:3; ヘブル 3:1, 2)。

『山に登り、わたしの所にき』なさいと、神はわたしたちに命じておられる。モーセがイスラエルを救い出す神の器となることのできる前に、寂しい山中で40年間、神と交わるように定められた。神の言葉をパロに伝える前に燃えるしばの中にいた天使と語った……

わたしたちもまた瞑想と祈りと精神の回復のために時間を決めておかなければならない。わたしたちは祈りの力と効果を正当に判断してはいない。祈りと信仰はこの世のどんな力もできないことをする。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 494, 495)

- b. サムエルが神と初めて話したとき、彼はどのような人でしたか(サムエル記上 3:1(上句))。なぜサムエルは初めて神に呼ばれたときに、わからなかったのですか(4, 5, 7節)。

「サムエルは、親切、寛大、従順、ていねいであつた。……サムエルは、よく手助けをし、愛情がこまやかであつた。」(人類のあけぼの下巻 228)

- c. 神がコルネリオに幻の中で語られたとき、彼はどのような人でしたか。彼はそのとき、教会員でしたか(使徒行伝 10:1, 2)。コルネリオは神のメッセージにどのように応えましたか(7, 8節)。

「コルネリオはローマの百卒長であつた。彼は金持ちで高貴の生まれであつたし、責任と名誉のある地位についていた。彼は異教徒の生まれで異教の訓練と教育を受けていたが、ユダヤ人との接触によって神のことを学び、心から神を拝して、貧しい人々をあわれむ行為によって、その信仰の偽りないことをあらわしていた。彼の慈善行為は遠くまで知れわたり、その正しい生活によってユダヤ人の間にも異邦人の間にも評判がよかった。彼は接触するすべての者によい感化を及ぼした。」(患難から栄光へ上巻 141, 142)

3. 神は献身していない人々に語られる

a. 神がカインに語られたとき、彼はどのような人でしたか（創世記 4:3-5, 8）。

「カインが神の命令を無視したにもかかわらず、神は、彼をお見捨てにならなかった。神は、この無分別な男を説得するためにおりてこられた。そして、主はカインに言われた。『なぜあなたは憤るのですか、なぜ顔を伏せるのですか』。天使によって神の警告は伝えられたのである。『正しい事をしているのでしたら、顔をあげたらよいでしょう。もし正しい事をしていないのでしたら、罪が門口に待ち伏せています』（創世記 4:6, 7）。それは、カイン自身の選択にかかっていた。もし彼が約束の救い主の功績にたより、神の要求に従ったならば、彼は神の恵みを受けたことであろう。しかし、もし彼が不信と罪を改めようとしなければ、主が彼を受け入れられなくても不平を言う理由はないのであった。」（人類のあけぼの上巻 69, 70）

b. 神がハガルに語られたとき、彼女はどのような人でしたか（創世記 16:1-9）。

c. 律法学者やパリサイ人たちが名も記されていない女をキリストに連れてきたとき、彼女はどのような人でしたか（ヨハネ 8:3, 4）。このお方との会話の後、彼女はどのようにになりましたか（10, 11 節）。

「女は、恐怖にふるえながらイエスの前に立っていた。『あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい』と言われたイエスのことばは、彼女には死刑の宣告のように聞こえた。彼女は目をあげて救い主の顔を見る勇気もなく、だまって自分の運命を待った。彼女は告発者たちが一言もいわず、あわてて立ち去るのを見て驚いた。すると『わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように』との望みのことばが彼女の耳にとびこんできた（ヨハネ 8:11）。女の心はやわらいだ。彼女はイエスの足下に身を投げ、感謝に満ちた愛のあまり、すすり泣きながら、にかい涙とともに自分の罪を告白した。

これは彼女にとって新しい生活、すなわち神の奉仕にささげられる純潔で平和な生活の始まりであった。……悔い改めたこの女は、キリストの最も忠実な信者の一人となった。自己犠牲的な愛と奉仕をもって、彼女は自分をゆるしてくださったイエスのあわれみに報いた。」（各時代の希望中巻 248）

4. 神が語ることを拒まれるとき

- a. なぜイエスはご自分の裁判の時に、カヤパに語られなかったのですか（マタイ 26:62, 63; イザヤ 53:7）。

「カヤパは高慢で、残酷で、威張っていて、偏狭な男だった。」（各時代の希望中巻 359）

「カヤパはイエスを競争相手と考えていた。人々が救い主のことばを熱心に聞き、イエスの教えを受け入れそうなのが、大祭司の激しいねたみをひき起こしていた。しかしいまカヤパは、この囚人を見て、その高貴で威厳のある態度に感心させられた。この人は神と同じおかたであるという確信がひらめいた。だが次の瞬間、彼はその思いを嘲笑のうちに打ち消した。たちまち彼の声は、イエスにその偉大な奇跡をみんなの前で行なうようにと要求する侮蔑的でおうへいな調子となってひびき渡った。しかし彼の声は救い主の耳にはあたかも聞こえないようであった。」（同上 下巻 197）

「主はすべての人の心を読み、彼らの動機と目的を理解される。」（教会への証 4巻 534）

- b. 神は、サウル王が生涯を終えようとしていたとき、彼に語られましたか（サムエル記上 28:5, 6）。なぜ、神は彼をこのように扱われたのですか（サムエル記上 15:22, 23）。

「主は、真心からへりくだって、主のもとに来る魂を退けられることはない。主は、なぜサウルに返答を与えず、退けられたのであろうか。それは王が、彼自身の行為によって、神に問うことができるあらゆる方法の特典に浴されなくなったからであった。彼は、サムエルの勧告を拒否した。彼は、神が選ばれたダビデを追放した。彼は、主の預言者たちを殺した。天の神が定められた伝達の方法を切斷しておきながら、神の答えを期待することができるであろうか。彼は、罪を犯して、恵みの霊を去らせてしまった。彼は、夢または主の幻によって答えを得ることができようか。サウルは、へりくだって悔い改め、神に立ち帰らなかった。彼が求めたのは、罪の許しや神との和解ではなくて、敵からの救済であった。彼は、自分自身の強情と反逆によって、神から切り離された。悔悟と悔い改めによる以外に、彼が立ち帰る道はなかった。しかし、高慢な王は、苦悶と絶望のうちに、他に助けを求めることにしたのである。」（人類のあけぼの下巻 359.360）

5. 神はわたしたちの注意を求めておられる

a. 過去において、神はどのようにして様々な人の注意を引こうとしてくれましたか。

- ・ モーセ：出エジプト記 3:2, 3.
- ・ エリヤ：列王記上 19:9-13.
- ・ バラム：民数記 22:27, 28.

b. 今日、神はどのような条件に基づいて、わたしたちに語られますか（詩篇 46:10）。

「神に訓練されている者はすべて自分自身の心や自然や神とまじわる静かな時が必要である。彼らはこの世やその習慣や行動と調和しない生活をなすべきであって、神のみ旨を知るには個人的な経験が必要とする。わたしたちは各自その心に、神がお語りになっているのをきかねばならない。他のすべての声が静まって神の前でわたしたちが静かに待つとき、心の静けさは神のみ声をいつそう明りように聞えさせてくれる。神は『静まって、わたしこそ神であることを知れ』とお命じになる（詩篇 46:10）。神のためになすすべての働きには、これが有効な準備となる。こうして心を新たにした者は、忙しい人々の間にあってもまた、人生のはげしい活動の中にあっても、光と平安の雰囲気にかこまれる。そうして体力も精神力も、新たな力を増し加えられる。その生活はよいかおりを放ち、人々の心を感動させる神の力を表わすのである。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 33）

「キリストのうちに完全にされる人は、まず誇りと自己満足が空にされなければならない。そのとき、魂のうちに静けさがあり、神のみ声が聞こえるのである。」（サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 4 月 9 日）

個人的な復習問題

1. わたしたちはどのようにして、神がわたしたち一人ひとりと個人的に語りたいと望んでおられることがわかりますか。
2. 神がご自分に献身した人々に語られることが、どのようにわかりますか。
3. 神がご自分と歩んでいない人々に語っておられるかどうか、どのようにわかりますか。
4. 神が語ることを拒まれる人もいますか。それはなぜですか。
5. 今日、神はどのようにして、わたしたちの注意を引こうとしておられますか。

実際に聞く

「思慮のない者よ、悟りを得よ、愚かな者よ、知恵を得よ。」(箴言 8:5)

「義務の声は神のみ声である。すなわち、先天的な天来の案内である。好んでも好まなくても、わたしたちは自分たちの前途にある義務を果たさなければならない。」(ビュ・アンド・ハルト 1910 年 12 月 29 日)

推奨文献：教会への証 3 巻 521-544

日曜日

7月5日

1. 日常生活における神のみ声

- a. 神がわたしたちにご自分のみ旨を明らかにされる通常の方法は何ですか (ルカ 17:10)。わたしたちは、この神の通信の方法を無視して安全でいられますか。

「だれも神のみ言葉が禁じている事柄をし続けていたり、何か知っている義務をなおざりにしていながら、心から信じて義に至り、信仰による義認を得ることはできない。」(セクレッド・メッセージ 1 巻 396)

「当然果たすべき義務を怠ってはいは〔モーセは〕安全ではなかった。なぜなら、彼は、神の天使たちに保護されることができないからであつた。」(人類のあけぼの上巻 292)

「義務は、いかなる競争相手も認めず、どんな反対勢力とも妥協することはない。最も大切な友人や親戚が、あなたの義務とあなたの神との間に立ち入ることがあってはならない。義務の声は、わたしたちの魂のうちにある神のみ声である。」(ビュ・アンド・ハルト 1887 年 6 月 7 日)

- b. なぜ主人は、一タラントを与えた僕に対して喜ばなかったのですか (マタイ 25:26, 27; ルカ 16:10)。

「どんなに小さい義務であっても、それに不忠実であることは、人間が神につきすべき奉仕を、創造主から奪うことになる。」(キリストの実物教訓 332)

2. 聞くことを拒む

- a. なぜ裕福な青年は、イエスがするようにと言われたことをしたくなかったのですか（マタイ 19:21, 22）。神はわたしたちの義務を教えるために、どのような二つの道具をお用いになりますか。

「自分の傾向を喜ばせるために、神が与えて下さった持ち場を離れ、自分自身の考案した計画に従って行動する男女は、失望に会う。なぜなら、彼は神の方法の代わりに自分の方法を選んだからである。」（神のむすこ娘たち 175）

「自分の義務が生来の傾向と調和している時には、はっきりと自分の義務を理解する人々がいる。理性と環境は、彼らの義務をはっきりと指し示することができる。しかし、義務の道が、自分たちの傾向に沿っていないとき、これらの証拠はしばしばわきへおかれる。それから、これらの人々は僭越にも自分たちの義務を知るために神の許へ行くのである。しかし、神は軽くあしらわれるようなお方ではない。このお方は、このような人々が自分自身の心の願い通りに従うことを許されるのである。」（ウッチマン 1908 年 9 月 1 日）

「この世の生涯において神のご要求を無視する人々は、天においてこのお方の權威を重んじていないのである。」（教会への証 4 巻 312）

- b. なぜ神はときに、ご自分のみ旨をわたしたちにお教えになることを差し控えられるのですか（イザヤ 59:1, 2; 詩篇 81:11, 12; ヨハネ 7:17）。

「義務の声を聞かず、従わない男女や子供になすすべはない。なぜなら、義務の声は神のみ声だからである。男女が神聖な勧告に注意を払うことを拒み、自分たちを最も喜ばせる方法を選ぶならば、目も耳も心も印象を受けなくなる。」（神のむすこ娘たち 175）

- c. 神の仰せになることを聞かない理由は、たいていの場合何ですか（申命記 1:43; サムエル記上 15:23）。

3. 中立の人は必要とされていない

- a. わたしたちは神のみ旨を教えてもらうのに、だれか他の人を待つ必要があるでしょうか (ヤコブ 1:5, 6)。

「自分の義務についての責任を他人におしつけて、彼らがわれわれにすべきことを告げてくれるのを待つてはならない。われわれは人の助言にたよることはできない。主はほかの人にお教えになるのと同じようによこんでわれわれの義務をお教えになる。もし信仰をもって主のみもとに行くならば、主はご自分の奥義をわれわれに個人的に語ってくださる。神がエノクにそうされたように、われわれとまじわるために近づかれるときに、われわれの心はしばしばうちに燃える。神をよろこばせないようなことは何もしないと決心する者は、自分の問題を神の前に持ち出したあとで、とるべき道を知るであろう。そして彼らは、知恵ばかりでなくまた力を受けるのである。服従と奉仕の力は、キリストが約束されたように彼らにさづけられる。」(各時代の希望下巻 150.152)

- b. わたしたちが神に導きを求めるとき、何が約束されていますか (箴言 3:5-7)。

「めんどろな事が起こり困難に直面した場合、人間に助けを求めてはならない。何事も神にたよらなければならない。困難なことについて他人に話しても、それは、自分を弱めこそすれ、それを聞いた人にはなんの力にもならない。わたしたちの靈的弱さというどうすることもできない重荷を彼らに負わせるだけである。わたしたちは少しも誤られることのない無限の神の力を受けることができるにもかかわらず、誤りやすい有限な人間の力にたよろうとしているのである。……

わたしたちは、人間のできることに、信頼をおかないで、信じるすべての魂のために、神がおできになることにもつともつと信頼をおかなければならない。神は、あなたが信仰によって、神にたよることを望んでおられる。神は、あなたが、神に大きなことを期待することを望んでおられるのである。神は、靈的のものと同様に、この世のものに対する理解をも与えようと望んでおられる。神は、知性を鋭敏にすることがおできになる。また、手腕と技巧とを与えることがおできになる。」(キリストの実物教訓 125)

「神はご自分に求める者に聖靈を賜と言われなかったであろうか。そしてこの御靈は現実にして真実な實際の導き手ではないだろうか。ある人々は神のみ言葉どおりにこのお方を信じるのが僭越ではないかと恐れているように見える。彼らはわたしたちに教えてくださいと主に祈りながら、神の誓われた言葉を信用し、わたしたちが神から教えられてきたことを信じることを恐れる。わたしたちが天父のみ許へ、へりくだって教えていただく精神をもって行く以上、なぜ神がご自身のみ約束を成就なさることを疑うべきであろうか。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1155, 1156)

4. わたしたちに対する神の態度

- a. 神がわたしたちに個人的にご自分の方法を教えたいと望んでおられるみ心を表すために、キリストは何と言われましたか（マタイ 7:7-11）。

「神はご自分の子らを通して世にご自分の恵みを表すことができるようなことがらを、彼らが求めることを望んでおられる。このお方は彼らのご自分の勧告を求め、ご自分の力を認めることを望んでおられる。キリストはご自分が命をお与えになったすべての人に愛の要求を課しておられる。彼らはもし、地上でキリストのご品性を反映するすべての人のためにキリストが用意されている喜びにあずかりたいければ、このお方のみ旨に従わなければならない。わたしたちが自分の弱さを感じることはよいことである。なぜなら、その時わたしたちは、御父がご自分の子らに悪の勢力に対する日々の戦いのために喜んで与えて下さる力と知恵を求めるからである。」（教会への証 9 巻 284）

- b. わたしたちと通じることを求めておられるとき、神はどれほど忍耐強くあられますか（ローマ 14:5（第二句）；ペテロ第二 3:9）。

- c. 他の人々が神の方法を理解するのに、わたしたちはどれくらい忍耐すべきですか（マタイ 7:12；エペソ 4:2；ルカ 6:37）。

「神の自由な代理人として、みなこのお方から知恵を求めるべきである。学ぶ者がまったく他の人の思想に依存し、その人の計画を受け入れる以上に進まないなら、彼はただその人の目を通して見るだけであり、それでは他の人のこだまになるにすぎない。神は人を責任のある存在として扱われる。もし人が神に働く機会を与え、このお方の取り扱いを認めさえすれば、神は聖霊によってご自分が人のうちに入れられた思いを通して働かれる。このお方は各自が自分の思いと良心を自分で用いるよう計画しておられる。だれかが他の人の影となり、他の人の考えを述べるだけになるようにとは意図しておられない。……

人は個々に神に対して責任があり、各自は他の人の思いによって動かされるのではなく、神が自分に働きかけてくださるとおりに行動しなければならない。」（同上 5 巻 724, 725）

「だれも他人の心を支配したり、他人の代りに判断したり、他人の義務を規定したりすべきでない。神は、ひとりびとりに考える自由と、自分自身の確信に従う自由をお与えになっている。……自分自身の個性を他人の個性の中に没入させる権利はだれにもない。」（各時代の希望中巻 370）

5. 神はどのように印象をお用いになるか

- a. 義務の声を通してわたしたちを導かれるのに加えて、神は他にどのような方法でわたしたちに語られますか（イザヤ 30:21）。神は聖霊の印象を通して、どのようにマリヤを導かれましたか。

「マリヤは自分の愛の行為の意義を十分に知らなかった。彼女は自分を非難する人たちに答えることができなかった。彼女はイエスに油をそそぐのになぜそんな機会をえらんだのか説明できなかった。聖霊が彼女のために計画され、彼女はそのささやきに従ったのである。靈感はことさら理由を説明なさらない。目に見えない存在、それが心と魂に語り、心にはたらきかけて行動させる。それだけで正当な理由である。」（各時代の希望中巻 387）

「神のみ声が聞こえるもうひとつの方法は、このお方の聖霊の訴えを通してであり、心に印象を与えることによってである。その印象はその印象は品性のうちに表されるのである。」（教会への証 5 巻 512）

「良心は人間の感情の戦いのただ中で聞かれる神のみ声である。それに抵抗するとき、神の御霊は悲しまれる。」（同上 120）

「神は、摂理を通し、または心にささやく聖霊の感化を通してお語りになる。」（キリストへの道 118）

- b. わたしたちはどの標準に対して、自分の印象を吟味すべきですか（イザヤ 8:20）。

「聖書は……生活上のあらゆる状況において人の義務を明らかにしている。」（教会への証 4 巻 312）

「もしあなたが何かの主題について疑いのうちにいるなら、まず聖書に勧告を求めなければならない。」（同上 5 巻 512）

個人的な復習問題

1. もし知っている義務を一つ、なおざりにしているなら、わたしたちの霊的な状態はどのようなものですか。
2. わたしたちはどのように自分の義務を決めるべきですか。
3. 自分の義務を知るために、何をしなければなりませんか。
4. 義務と個性の間にはどのような関係がありますか。
5. 神はどのように印象をお用いになりますか。わたしたちはどのようにそれらを誤用する可能性がありますか。

自然界における神のみ声

「神はその驚くべき声をもって鳴り渡り、われわれの悟りえない大いなる事を行われる。」(ヨブ 37:5)

「自然の妙(たえ)に美しいものを見てごらんさい。……輝かしい日の光、地をうるおす雨、また山、丘、海、平原それらはみな神の愛を物語っている。」(キリストへの道 1)

推奨文献: 教育 121-129

ミストリー・オブ・ヒーリング 29-33

日曜日

7月12日

1. あまねく声

- a. 世において、自然界における神のみ声が聞こえないところはどこですか(詩篇 19:1-3)。

「自然は、〔わたしたち〕の知覚に訴え、生きた神、創造主、万物の最高の支配者の存在を宣言している。……地上をおおっている美は、神の愛のしるしである。われわれは、それを万古不易の山、壮大な樹木、開くつぼみ、優美な花に見ることができる。万物は、神について語っている。」(人類のあけぼの上巻 23)

- b. 自然は世界中の人々にどのようなメッセージを与えていますか(ローマ 1:20)。

「神の真の知識を持っている人々は、自然界における神の継続的な働きを見過ごしたり、認めることを拒んだりするほど、物理的な法則や自然の営みに夢中になることはない。自然は神ではないし、神であったこともない。自然の声は神を証しているが、自然は神ではない。それは神の創造のわざとして、単に神の力に対して証を担っているだけである。」(セレクトド・メッセージ 1 巻 293)

2. 鳥からの教訓

- a. わしの行動を通して、神はわたしたちに何を教えておられますか（イザヤ 40:31）。

「アルプスのわしも、時にはあらしのために、山の狭い谷間にたたきおとされることがある。あらしの雲にとじこめられたこの森の王者は、黒雲のかたまりのために、彼女の住み家である太陽の輝くがけの頂上からさえぎられてしまう。逃げだそうとどんなに努力しても徒労であるかのようにみえる。彼女は、あちらこちらに突進し、その強い翼を空中にはばたかせ、叫び声を山々にこだまさせる。しかしついに、勝利の叫びとともに彼女は上のほうへ突進し、雲をつき抜けてふたたび明るい太陽の輝くところへ出て、暗黒とあらしをはるか下のほうに見おろす。われわれも困難や失望や暗黒にとりかこまれることがある。虚偽や不幸や不正がわれわれをとじこめる。そこには払いのけることのできない雲がある。境遇と戦ってもむなしくみえる。逃げだす道は一つ、しかもただ一つだけしかない。霧やもやが地上をおおっているが、雲の上には神の光が輝いている。信仰の翼によって、太陽の光のような神の面前に出ることができるのである。」（教育 127）

- b. 鳥を観察することから学ぶことのできるもうひとつの教訓は何ですか（マタイ 6:25, 26）。

「自然界は、神が供給してくださる力のほか、それ自体には何もない。」（セレクト・メッセージ 1 巻 293）

「小鳥は、信頼についてやさしい教訓を教える教師である。天の父なる神は、小鳥に必要なものを備えられるが、しかし小鳥たちは自分で食物をあつめ、巣をつくり、ひなを育てなければならない。彼らは、たえず敵に襲われる危険にさらされている。それでもなお彼らは喜々として働きに出かけ、その歌声はよろこびにあふれている。」（教育 126）

「わたしたちはこの世の生涯において失望や苦悩から解放されていないからと言って嘆いたり、悲しんだりしないようにしましょう。もし神のみ摂理のうちに試練に耐えるように召されるならば、わたしたちは御父のみ手がそれをわたしたちの唇に持ってきておられることを覚えて、十字架を受けいれ、苦い杯を飲もう。昼の時と同様に、闇の時もお方に信頼しよう。」（教会への証 5 巻 316）

3. 信仰と行い

- a. 神は自然界から、この他どのような信頼の教訓を教えたいと望んでおられますか（マタイ 6:27-30）。わたしたちは関心や時間や努力を、神に仕えるためにより多く捧げるべきですか、あるいはこの世の日ごとの必要に応えるためですか（30-33節）。

「生命を与えてくださったおかたは、それを維持する食物の必要なことをご存じである。からだを造ってくださったおかたが、衣服の必要をかえりみないということはない。生命という大きな賜物を与えてくださったおかたは、それを補うために必要なほかのものをお与えにならないことがあろうか。」（祝福の山 117）

「神の律法は愛の律法である。神はあなたを美で囲み、あなたを地にお置きになったのは、あなたがただ自己にのみ没頭して、掘ったり、建てたり、労したり、紡いだりするためではなく、キリストの愛によって生活を輝かしく美しいものとするためであることを教えようとされたのである。それは、花のように、愛の奉仕によって人々に喜びを与えることである。」（同上 120）

- b. 神のいくつかの他の被造物から、わたしたちはどの教訓を学ぶことができますか（箴言 6:6-11; 30:25-28（テサロニケ第二 3:10 参照））。

「ありは、忍耐強い勤労や、根気よく障害を征服することや、将来のために準備することなどについて教訓を教えている。」（教育 126）

「ありが自分たちのために建てる住まいは、技能と辛抱強さを示している。彼らが一度に扱えるのは、穀物ひと粒だけであるが、勤勉さと辛抱強さによって、驚くようなことをなし遂げる。ソロモンは世にありの勤勉さを、自分の時間を罪深い怠惰、すなわち魂と体を堕落させる習慣のうちに無駄にする人々への譴責として提示している。ありは将来の時のために備えをする。これは、理性の力を賜物として与えられている多くの人々が無視している教訓である。彼らは神が堕落した人類のためにご自分のみ摂理のうちに確保してくださった将来の不死の命を受ける準備をまったくしないのである。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1157, 1158）

「イエスはわたしたちが努力をしなくてもよいようにしてくださるというのではなく、すべてのことにおいてイエスを最初とし最後とし最上とするようにと教えておられるのである。わたしたちは、自分の品性と生活においてイエスの義が完成されるのを妨げるような事業や勤めにたずさわったり、あるいはそうした楽しみを求めたりしてはならない。わたしたちのすることは何であれ、主に対してするように心からしなければならない。」（祝福の山 122）

4. 木のようになれ

- a. なぜ自然を研究することはそれほど重要なのですか。わたしたちは神について、何を学ぶことができますか（詩篇 111:4, 6-8; イザヤ 40:26）。

「どれほど多くの時間を知的存在者である人間が、競馬やクリケット競技やボール遊びに費やしていることであろう!しかし、これらのスポーツにふけることによって、真理と義を知りたいとの願いが与えられるであろうか。それによって神のことが思いにとどめられるであろうか。それらは、わたしの魂はどうであろうかと自問するよう導くであろうか。……」

神はご自分の被造物に、自分の注意を周囲の混乱や困惑から転じて、ご自分のみ手のわざに見入よう呼びかけておられる。わたしたちがこのお方のわざを研究するとき、天からの使が傍らにいて、わたしたちの思いを啓発し、サタンの欺瞞から守ってくれる。神のみ手がなされた驚くべき事柄を眺めるとき、あなたの誇り高い愚かな心が、依存していることと劣っていることを感じるようにしなさい。」（両親、教師、そして生徒への勧告 456, 457）

- b. クリスチャンは何にたとえられていますか（詩篇 1:1-3; 92:12, 13）。

「やしの木はクリスチャンの生涯をよく表している。それは焼け付くような砂漠の砂地の中でまっすぐに立ち、枯れることがない。なぜなら、それは表面の下にある命の泉から栄養をくみ上げているからである。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 卷 1151）

- c. その他、わたしたちが自然から学ぶことのできる実際的な教訓は何ですか。

「このように〔自然から〕学び得る教訓はたくさんある。平地や山腹にひとりぼっちでそびえ立ち、根を地中の深くに張ってそのたくましい力によってあらしをものともしない木からは、自己の力にたよっている姿を学ぶことができる。若木のときにまがったまま、地上のどんな力によっても、失われた均整をとりもどすことのできない、ひねくれた形の悪い木の幹からは、幼年時代にうける感化力について学ぶことができる。雑草やごみにとりかこまれた泥沼の面に咲くすいれんは、みぞのある莖を底のきれいな砂の中につっこんで、そこから生命を吸いあげ、そのかぐわしい花をけがれない純潔な姿で光にむかつてもちあげる。」（教育 128）

5. いかに自然のメッセージを理解するか

- a. わたしたちが自然を理解するためには、だれの助けが不可欠ですか（ヨハネ 16:13; 14:26）。

「自然界のいたるところに、われわれに対する神のみこころが現わされ、われわれの必要と幸福のためにすべてのものが驚くばかりにふさわしく造られていることに、〔子供たち〕の目をむけるがよい。

自然の中に父なる神のみわざをみとめる者や、地の富と美しさの中に神の筆跡を読む者だけが、自然の事物から最も深い教訓を学び、その最高の奉仕をうける。山や谷、海や川を、神の意志の表現また創造主の啓示としてみる者だけが、その意義をほんとうに理解することができるのである。」（教育 128, 129）

- b. どのできごとが、自然のメッセージを最も鮮明に教えていますか（ヨハネ 1:4）。

「カルバリーに輝く光によってのみ、自然の教えは、正しく読まれる。ベツレヘムと十字架の物語を通して悪を征服することがどんなにたいせつであるか、またわれわれに与えられるあらゆる祝福は贖罪の賜物であるということを明らかにしなければならぬ。

いばらや あざみや毒麦の中には、害し傷つける悪の力が表わされている。歌う小鳥に、咲く花に、雨に、日光に、夏の微風に、やさしい露に、森のかしの木からその根元に咲くすみれにいたるまで、自然界の幾万ともしれない事物の中には、愛のいやしがみられる。こうして自然は今もお神の恩恵を告げている。」（同上 106）

個人的な復習問題

1. 神は今日自然を通して、あなたに何を教えようとしておられますか。
2. 鳥は神に信頼するという教訓を、どのように教えることができますか。
3. わたしたちはあり、すなわちもっとも小さい被造物の一つから何を学ぶことができますか。
4. 木々が与える実物教訓のいくつかをあげなさい。
5. 今日、神はどのように自然のメッセージを説明しておられますか。

神の大使たち

「わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。」(箴言 1:8)

「親は……自分の子供たちを訓練することをなおざりにすること以上に、〔神〕を不快にさせることはできない。神は彼らに聖なる信任として、すなわちご自分のために教育するために、これらの子らをお与えになったのである。ある意味において、彼らは自分の子供たちに対して神の立場に立っている。」(サインズ・オブ・タイムズ 1901 年 9 月 25 日)

推奨文献：アドベンチスト・ホーム 201-209

日曜日

7月19日

1. 神のための大使たち

a. 第五条の戒めのメッセージは、何ですか (出エジプト記 20:12)。

「親は、ほかのだれも受けることのできない愛情と尊敬を受ける資格がある。神は、お与えになった子供たちの責任を親に負わせられた。そして、子供たちが幼いころは、親が子供たちに対して、神の立場に立つことを神ご自身が定められた。親の正当な権威を拒む者は、神の権威を拒んでいる。」(人類のあけぼの上巻 359)

b. 親は自分の若い子供たちをどのように助けるべきですか (箴言 22:6)。

「〔親〕は、善悪の違いを理解するには若すぎる者たちの救いの達成に努めなければならない。彼らはどんな場合も自分の子供たちの心の中で善が自然に優位を占めるようになって決して考えてはならない。彼らは自分の小さな者たちの言動を注意深く守るべきである。さもないと敵が彼らに対する感化力を得るようになる。」(サインズ・オブ・タイムズ 1901 年 9 月 25 日)

2. おそるべき責任

- a. かつて人類に与えられた中で最も厳粛な責任を、親はどのように扱うべきですか（エペソ 6:4）。

「何らかの理由で、多くの親は自分の子供たちに宗教的な指導を与えることを好まず、自分が与えることが特権であり義務である知識を、子供たちが安息日学校で拾い上げるに任せている。……神はご自分の民に主の薫陶と訓戒によって自分の子供たちを育てるように命じておられる。これは、すなわち主の薫陶と訓戒とは何を意味するであろうか。それはみ言葉の要求と教訓によって生活を整えること、また彼らが神の都へ入るための条件についてはっきりとした理解を得るために助けることを意味している。入りたいと思うすべての人に対して都の門が開かれるわけではない。ただ神のみ旨を知るために研究し、自分の生涯をこのお方の支配に委ねた者に対してのみ開かれるのである。」（両親、教師、そして生徒への勧告 109）

「親切に、真剣に、やさしく、親は自分の子供たちのために働き、品性のうちに発達するあらゆる良い傾向は培い、あらゆる悪い傾向は抑止すべきである。」（サインズ・オブ・タイムズ 1901 年 9 月 25 日）

「主に全的に服従し信頼することがどんなことであるかを子供たちに理解させるに必要な時間を彼らのためにさくことができないほど他の仕事を重要視してはならない。」（アドベンチスト・ホーム 197）

- b. テモテを家庭で教えたのはだれでしたか。また、彼らの教えは子供として、また青年として彼の生活にどのように影響しましたか（テモテ第二 1:5; 3:15）。

「テモテの父はギリシヤ人で、母はユダヤ人であった。テモテは子供のころから聖書を知っていた。彼が自分の家庭で見た信仰は、健全で良識的であった。聖書に対する彼の母と祖母の信仰は、彼に神のみこころをなすことの祝福を絶えず思い出させた。神のみことばは、これら二人の敬虔な婦人たちがテモテを導いた原則であった。この二人から受けた教訓の霊的な力によって、彼の語ることは純潔で、彼は周囲の悪影響にけがされなかった。このように、家庭の訓育者たちは、神と協力して、彼が重荷を負う準備をしたのであった。」（患難から栄光へ上巻 218）

3. 訓練の役割

a. 訓練の目的は何ですか (詩篇 144:12; 箴言 25:28; 16:32)。

「訓練の目的は自分で自分が治められるように子供をしつけることである。独立心と自制を子供に教えなければならない。……子供に、すべてのことには、規則があること、不服従は結局不幸と苦悩の原因であることをみとめさせなければならない。

……

しかるということの真の目的は、悪いことをした本人がその過失をみとめてこれを直そうという意志を持ったときにはじめて達せられるのである。この目的を達することができたなら、つぎに許しと力の源を示さなければならない。」(家庭の教育 227, 228)

「真理の原則によって正しくしつけられ、神を愛しおそれる精神が品性に織りこまれている子供が、一人いたならば、測りしれないほどの良い影響を世に及ぼす。」(同上 160)

b. わたしたちは自分の保護の許にいる子供たちをどのように訓練すべきですか (箴言 29:15; コロサイ 3:21)。

「まず子供によく話してきかせ、彼らの悪いところをはっきりと指摘し、彼らがあなたに対して罪を犯しただけでなく、神に対して罪を犯したのだということを印象づけなさい。あやまちを犯した子供に対してあわれみと悲しみで心を満たし、彼らを矯正する前に共に祈りなさい。そうすれば子供は、自分があなたに迷惑をかけたから、またあなたが不愉快な気持ちを彼らにぶちまけたいから罰するのではなく、よくしたいという気持ちで罰するのだということがわかって、あなたを愛し尊敬するようになる。」(同上 261)

「頑固や不従順、また反抗を引き起こすような方法で自分の子供たちを扱うことがないように、親は大変な注意を払わなければならない。親はしばしば自制心の欠如のために、人間の心の最悪の感情をかき立てる。彼らは怒りの精神で子供たちを矯正する。そして彼らを正しい方法へ向かうよう感化するよりも、むしろその邪悪なやり方と反逆的な精神のうちに固めてしまうのである。」(レビュー・アソド・ハラルド 1892 年 11 月 15 日)

「ご両親がた、決して衝動から行動してはならない。決して自分が怒っている時に、自分の子供を正してはならない。なぜなら、あなたがこうするとき、その子を自分自身のかたちに従って一衝動的で、感情的で、理不尽に一形成することになるからである。あなたは乱暴に脅かしたり、しかったりすることなく、堅固でいることができる。」(オーストラリア連合総会記録 1909 年 9 月 6 日)

4. 親の過ちを克服する

- a. 自分の親に従うことについてすべての子供にどのような命令が与えられていますか(エペソ 6:1)。親は教師に与えられている勧告から何を学ぶことができますか。

「親の意志は、神のご意志と調和しているとき、律法となるべきである。」(レビュー・アンド・ハルト 1900 年 12 月 18 日)

「天の使たちは、救いを受け継ぐべき人々に奉仕するために遣わされる。そして彼らはもし教師たちが多くの人が歩んできた伝統にこれほど満足していないならば、すなわちもし彼らが世の陰から出ることをこれほど恐れていないならば、彼らと言葉を交わすのである。教師たちは自分たちが戸を閉ざしてしまい、主が青年たちの心に入る入り口を見つけることがおできにならないようなことがないように、気をつけるべきである。」(教会への証 6 巻 161)

- b. わたしたちが自分の幼少時代に学んできたこれら事柄を振り返るとき、何をすべきですか(テサロニケ第一 5:21)。

「神のみわざをなすために選ばれたすべての人々の中に人間的な要素がみられる。だが、彼らは、型にはまった習慣や品性に満足して、じっとしている人々ではなかった。彼らは、熱心に神から知恵をえようと求め、神のために働くことを学ぼうとするのである。……[ヤコブ 1:5 引用]。しかし、神は、人々が暗黒の中にとどまって満足しているあいだは、天よりの光をお与えにならない。人間は、神の助けを受けるために、まず自分の弱さ、足りなさを自覚しなければならない。彼は、自分の中に大いなる変化が起こるように専心努力しなければならない。彼は、目をさまして熱心にたゆまず祈り、努力しなければならない。悪い習慣や風習は捨てなければならない。これらのあやまちを正し正しい原則に調和するように堅く決心して励んでこそ、勝利は得られるのである。多くの人は、当然得られる地位を得られないでいる。というのは、彼らが自分で実行するように神から力が与えられているのに、神が彼らのためにしてくださるのを待っているからである。有用な働きにふさわしい者はすべて、最もきびしい、知的、道徳的訓練によって鍛えられなければならない。そのとき、神は人間の努力に神の力を加えて助けてくださるのである。」(人類のあけぼの上巻 283, 284)

- c. わたしたちの先人たちの幾世代の人々が、わたしたちの習慣に感化を及ぼしていますか(出エジプト記 20:5)。

5. 可能な勝利

- a. モーセが若いとき、どのような選択をしましたか。彼はどのようにして彼のエジプトでの生活の影響力を克服することができましたか（ヘブル 11:24-27）。

「モーセは、忘れなければならないものがたくさんあった。エジプトにおいて彼を囲んでいた環境、たとえば、養母の愛情、国王の孫という高い身分、いたるところに見られる浪費、教養の高さ、鋭敏な眼識、そして、偽りの宗教の神秘性、壮麗な偶像礼拝の儀式、荘重な建築や彫刻など、すべては成長中の彼の頭脳に深い印象を与え彼の習慣や品性の形成に相当の影響をおよぼした。これらの印象をとり去ることができるのは、時間と環境の変化と、そして、神との交わりであった。モーセにとっても誤謬を捨てて真理を受け入れることは必死の激しい戦いを要した。しかし、その戦いが人間の力では耐えられないほど激しくなるときには、神が助けをお与えになるのであった。」（人類のあけぼの上巻 283）

- b. わたしたちはどのようにして、罪に打ち勝つよう自分の子供たちを励ますことができますか（ペテロ第二 1:4; コリント第一 15:57, 58; 箴言 24:16（下句））。

「過失や欠点や困難を征服するたびに、それは、もっとよい、もっと高いものへの踏み石となるのだということを少年少女たちに教えなければならない。生きがいのある一生を送ったすべての人がなしとげた性向はみんなこのような経験から生まれたのである。（家庭の教育 264）

個人的な復習問題

1. いつ、親の言葉はその子供たちにとって神のみ声ですか
2. わたしたちはどのようにして、主の薫陶と訓戒のうちに子供たちを育てることができますか。
3. 訓練や譴責が成功するためには、何を得心しなければなりませんか。
4. わたしたちは神に用いていただくために、どのような大きな変化を経なければなりませんか。
5. わたしたちは幼少の頃に形成した悪習慣をどのように克服することができますか。

第一安息日献金 伝道学校のために

「全世界に出て行って」すべての国民を教えよとの救い主のご命令に愛を持って従うため、セブンスデー・アドベンチスト改革運動は、この任務を成し遂げる資格を持った働き人を準備させるべく奮闘しています。



伝道学校は、この準備のための主要な手段の一つです。

これらの学校は世界各地に設立され、わたしたちの青年たちを「現代の真理」において指導し、またそれをどのように広めるかを教えることに焦点を当てています。

「真の教育とは伝道者を養成することであって、神のむすこ、娘はすべて伝道者となるように召された者である。わたしたちは神と人々に奉仕するために召されている。そしてこの働きに適した者となることが、わたしたちの教育の真の目的でなければならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 364)

この教育の働きを実施するとき、二重の利益を得ることになります。まじめで飢え渴いている魂が恩恵を受けるばかりでなく、使者たち自身が強められ、神とのより緊密なつながりへ導き入れられるのです。

主の使命者はこの種の活動を支持し、それに携わるよう信徒たちを奨励しています。

「無知で滅びつつある人々のために労することができるよう知識を得ようと奮闘している人は、人類に対する神の偉大なご目的を成就するために、自分の役割を果たしているのである。他の人々を祝福するための無我の奉仕において、彼はクリスチャン教育の最高の理想に忠実である。」(両親、教師、そして生徒への勧告 545)

「主は、強く献身的で自己犠牲を払う青年男女、すなわち前に押し進み、短期間学校で過ごした後に世界にメッセージを伝える準備ができ外へ出て行く男女を召しておられる。」(同上 549)

そこで、わたしたちは世界中のすべての信徒の皆さんに、この必要のために心を開いてくださるよう、そしてこの目的のために特別献金が安息日に集められるとき、この報いある神の働きの分野の発展のために惜しみなく献金してくださるようお願いいたします。

皆さんの惜しみない心にあらかじめお礼申し上げると共に、神が捧げ物と捧げた人をゆたかに祝福してくださるものと信じています。

教育支部の兄弟より

教会における神のみ声

「では、ユダヤ人のすぐれている点は何か。また割礼の益は何か。それは、いろいろの点で数多くある。まず第一に、神の言が彼らにゆだねられたことである。」(ローマ 3:1, 2)。

「神はイスラエルをえらばれたのだった。……人々の間に、神の律法について、また救い主をさし示している象徴と預言とについて知識を残すために、イスラエルを召されたのだった。……彼らは人々に神をあらわすのであった。」(各時代の希望上巻 14, 15)

推奨文献：患難から栄光へ上巻 203-215

日曜日

7月26日

1. 神はご自分の教会を通して語られる

- a. タルソ人のサウロが改心した後、イエスは最初にどのような指示をお与えになりましたか (使徒行伝 9:6)。

「多くの人々は、自分たちの光と経験はキリストに対してだけ責任を負うものであり、キリストが信徒と認めた人々とは関係がないという考えをもっている。イエスは……人々の教化と救いのためにご自身がお定めになった方法を尊ばれる。イエスは、……教会に、罪びとを導かれるのである。」(患難から栄光へ上巻 128)

- b. 神の教会を通してわたしたちに語られる神のみ声を聞いて、このお方の民と協力することは、なぜ重要なのですか (マタイ 18:18-20)。

「主は組織された体を持っておられ、それを通して働かれる。」(セレクトド・メッセージ 3 巻 17)

「世の贖い主は、宗教的な事柄においてご自分が組織され、認められた教会と関係なしになされる経験や働きを認可されない。……救い主は〔サウロを〕ご自分の教会とのつながりにおかれ、サウロになすべきことを彼らに指示させたのである。……

キリストのみ名のうちに、このお方の権威によってすべてのことがなされる。しかし教会は伝達の通路である。」(パウロの生涯からのスケッチ 31, 32)

2. 教会を通して語られる神に聞く

- a. 三年後、イエスは彼に個人的に何をお教えになりましたか。(そのときはパウロと呼ばれた) サウロはどこへ行きましたか(ガラテヤ 1:1, 15-19)。

「パウロは個人的に神に教えられたのであるが、自己の責任を乱用するような考えを持っていたのではない。神の直接の導きを求めながらも、パウロは、教会員として一致している信者たち全体にさづけられた権威を、常に重んじる態度を取った。」(患難から栄光へ上巻 215)

「神は決して、一人の考えや判断が支配力となるようには計画されなかった。このお方は決して一人が、体組織全体の注意深い祈りを伴う考慮なしに、支配したり計画したり考案したりするようには計画されなかった。」(セクレット・メッセージ 3 巻 16, 17)。

「どんなに立派な人でも、好きなようにさせておかれると、判断を誤るものである。……

人に課せられた責任が重ければ重いだけ、また、彼が命令したり、支配する機会が多ければ多いだけ、彼が神の道に慎重に従って、総会で信者たちが到達した決定に一致して働かないかぎり、彼はそれだけ大きな害を及ぼしてしまうのである。」(患難から栄光へ上巻 214)

- b. 旧約の時代に神の選ばれた指導者が、嫉妬によって批判されたとき、何が起きましたか(民数記 12:1, 2, 9, 10)。わたしたちはここから、何を学ぶことができますか。

「自己の判断が最上だと思いがちな人々は、重大な危険にさらされている。光の通路となり、神がこの地上におけるみわざを築き上げ、進展させるために働きかけてこられた人々から、そのような人々を引き離すことが、サタンの巧妙な手口である。真理を前進させるために責任のある指導的立場を神からゆだねられた人々を、無視したり、軽んじたりすることは、神がその民を助け、励まし、力づけるために定められた手段を、拒むことになる。だれでも神の御目的の中で働く者にとって、この手段を見落として、自分の光が他の通路を通らず、神から直接に来なければならないと思うことは、敵に欺かれ打ち負かされやすい立場に、自分を置いているのである。……すべての働きが聖霊に従属し、すべての信徒が組織的に、よい指揮のもとに一致す……るようになるのである。」(患難から栄光へ上巻 175, 176)

3. 教会の決定との協力

- a. 教会の決定を正当なものとするために、どのように尊重されるべきですか（ペテロ第一 5:5; ヘブル 13:17; 箴言 11:14）。

「だれかの判断が、他の人の判断に明け渡されるべきではないことを、わたしは主によって何度も教えられてきた。決して一人のあるいは二、三名の頭脳を、働きを支配し、どの計画に従うべきかを述べるのに十分な知恵と力だとみなすべきではない。しかし、世界総会において、あらゆる地域やフィールドから集まった兄弟たちの判断力が働かされると、個人的な独立性や個人的な判断を頑固に維持するのではなく、明け渡されなければならない。働き人は、体組織全般の決定と反対に、自分の独立の立場をあくまでも維持することを徳だとみなすべきではない。

ときどき、働きの全般的な運営を任された少人数のグループが、世界総会の名をもって、賢くない計画を実行し、神のみわぎを制限しようとするとき、わたしはこれらの二、三名によって代表された世界総会の声をもはや神のみ声だとみなすことはできないと述べてきた。しかし、それは正式に任命された人々、すなわち世界各地のフィールドからの代表者によって構成された世界総会の決定を尊重すべきではないと言っているのではない。神は、全地からのご自分の教会の代表者たちが世界総会において集まるとき、彼らが権威を持つことをお定めになった。ある人々が犯す危険のある過ちは、神がご自分の働きの繁栄と前進のために計画するべく集められた世界総会の判断と声においてご自分の教会に与えられた権威と感化力をそのまま一人のあるいは少人数の人々の思いと判断に与えてしまうことにある。……

わたしたちが一人や少人数のグループに与えてしまいがちなものを、教会における最高の組織された権威に与えようではないか。」（教会への証 9 巻 260, 261）

「神はご自分の教会に、天の下の最高の権威を与えてこられた。尊重すべきは、教会の中にいる一致した神の民のうちに聞かれる神のみ声である。」（同上 3 巻 451）

- b. 主は教会の指導者たちが、同信仲間に対して、どのような態度をもつことを望んでおられますか（ピリピ 2:3-8）。

4. 教会は決して神の代わりとはならない

- a. だれか信徒や教会役員が、他の教会員の個人的な義務を決めたり、命じたりすることができますか（マタイ 20:25-28）。

「人間の権威、教会の慣習、昔の人々の言い伝えを受け入れる者はみな、『人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる』と言われたキリストのみことばのうちに含まれている警告を心に留めるがよい（マタイ 15:9）」（各時代の希望中巻 155）

「あなたの信仰と信頼を神におきなさい。自分の義務を決めるのに、だれであっても過ちのある人間に頼ってはならない。……

すべての教会員は神こそ個々人の義務の理解のために求めるべきお方であることを理解すべきである。兄弟が共に勧告することは正しいことである。しかし、人が兄弟がすることを厳密に取り決めるとき、その兄弟は主を自分の勧告者として選んだと答えるがよい。このお方を謙遜に求める人は、このお方の十分な恵みを見出す。しかし、ある人が他の人に、自分と神が自分のために指し示された義務の間に立ち入ることを許し、自分の信頼を人に与え、その人を自分の案内者として受け入れるとき、その人は真の土台から偽りと危険な土台へ踏み込むのである。そのような人は成長し、発展する代わりに、自分の靈性を失うことになる。」（教会への証 9 巻 279, 280）

- b. 教会の指導者に与えられたどの勧告がまた、他の人のふるまいを支配したくなる誘惑に駆られた信徒を導くべきですか（マタイ 23:8, 10-12）。

「指図し、指示し、命じることが自分の義務だと考える代わりに〔責任のある立場をしめているすべての人は〕自分自身こそ学ぶ者にならないべきであることを悟るべきである。もし責任のある働き人がこの教訓を学ばないならば、早くこの人を責任から解く方がその人のためにも、神のみ働きのためにもよいのである。地位は決して聖潔や品性の卓越さを与えることはない。神を尊び、このお方の戒めを守る人は、その人自身が尊ばれる。」（同上 282, 283）

「主がご自分の働きで重要な地位を占めるように召される人々は、このお方にへりくだって寄り頼む特質を培うべきである。彼らはあまりにも権威を擁護しようと努めてはならない。なぜなら、神は彼らに支配する働きをするためではなく、自分の同胞の働き人たちと共に計画し、勧告するために召されたからである。」（同上 270）

5. 論争を解決する

- a. 初代教会における論争を解決するためにどのような手続きが取られましたか（使徒行伝 15:1-4）。わたしたちはここから何を学ぶことができますか。

「〔あるユダヤ人たちは〕非常な確信をもって、だれも割礼を受けず、すべての礼典律を守らない限り、救われることはできないと言い張った。

これは重要な問題であり、教会に非常に大きな度合いで影響を与えるものであった。……問題は太に議論され、教会の中に調和がなくなり、ついには、アンテオケの教会が自分たちの中の分裂が問題のさらなる議論を呼ぶのではないかと恐れて、パウロとバルナバを他のアンテオケの責任のある人々と共にエルサレムへ遣わし、事態を使徒や長老たちの前におくよう決定を下した。そこで彼らは様々な教会の代表たち、またまもなく訪れる年毎の祭りに出席するために来ていた人々と会うのであった。その間、すべての議論は、教会の責任者たちによって最終的な決定がなされるまでやめるのであった。この決定はそのとき国中の様々な教会によって広く受け入れられなければならなかった。」（パウロの生涯からのスケッチ 63）

- b. 問題におけるペテロの要点を要約しなさい（使徒行伝 11:2-17）。ヤコブは自分の論拠をどこに置きましたか（使徒行伝 15:13-17）。この紛争をだれが収めましたか（28 節）。

個人的な復習問題

1. わたしたちはどのようにして神が組織された体を通して働き、語られることがわかりますか。
2. なぜ、ひとりの人に神の教会のために治め、計画する責任が委ねられてはいないのですか。
3. 教会の総会で責任者たちによってなされた決定を、わたしたちはどのように受け入れるべきですか。
4. 神はわたしたちが個人的な義務に関して勧告を求めて、教会のだれかのところへ行く代わりに、何を求めておられますか。なぜですか。
5. わたしたちは教会における論争をどのようにに取り扱うべきですか。

神のみ言葉を聞く

「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。」(ローマ 10:17)

「神は、み言葉をもってわたしたちに語っておられる。」(キリストへの道 119)

推奨文献：各時代の大家争闘上巻 243-261

日曜日

8月2日

1. 最高の権威

- a. 神のみ言葉は人の教えに対して、どれほどの権威を持っていますか(詩篇 119:105; イザヤ 8:20)。

「聖書は真理の完全な標準である。」(教育 6)

『『すべての人間の教えは神の言葉に従うべきである』。(各時代の大家争闘上巻 253)

「主はご自分の民のためにひとつの安全な道を持っておられる。そしてそれはご自分のみ言葉への従順の道である。そのみ言葉がわたしたちの案内役として、わたしたちに与えられている。」(パウル・エコー 1895 年 8 月 19 日)

- b. わたしたちは神のみ言葉を理解するために、どのように適切に自分たちの論理的思考能力を用いることができますか(イザヤ 1:16-18; コリント第一 1:18, 25; 2:14-16)。

「聖書を学ぶにあたっては、そこにわたしたちの理性以上の権威を認め、心も知能も偉大な『わたしは有る』お方にひざまずかなければならない。」(キリストへの道 153)

「わたしたちは理性を神聖化することに気をつけなければならない。それは人間の弱さと欠陥の下にあるのである。」(教会への証 5 巻 703)

「あなたの前に聖書を開き、聖化された理性と善良な良心に勧告を求めなさい。あなたの心は動かされ、あなたの魂の琴線に触れ、あなたの理性と知性は神の御霊によって目覚めさせられなければならない。そしてそのとき、神のみ言葉のうちに表された聖なる原則が魂に光を与えるのである。」(レビュー・アソッド・バールド 1893 年 2 月 7 日)

2. 神のみ言葉を通してこのお方に聞く

- a. もしわたしたちが神のみ言葉を通して、このお方に個人的に聞くならば、その結果は何ですか (申命記 4:6; 詩篇 119:94, 97-100)。

「神の尊い書物には、あらゆる階級とあらゆる職業の人々のための人生の規則が含まれている。」(教会への証 4 巻 416)

「わたしたちは自分自身の小ささと神への完全な依存を自覚した時にのみ、真の霊的な知識において前進する。しかし、神のみ言葉として聖書の言うことを研究するために、教えを受ける祈りに満ちた精神で聖書のもとへ来る人はみな、神聖な悟りを受けるのである。」(同上 5 巻 704)

「自分で聖書を探ることによって、あなたは信仰のうちに確立されるようになる。あなたが継続的に聖書を探り、思いに神の真理を蓄えることは、最も重要なことである。」(バィブル・エコー 1892 年 10 月 15 日)

「学識のある人から、または過去の偉人たちの書き物から受けた保守的な伝統は、この終わりの時代にわたしたちにとって安全な案内役ではない。……わたしたちは日々、時々刻々と、聖書の真理の原則—神の義、憐れみ、愛—によって行動しなければならない。道徳的また知的な力を持ちたい人は、神聖な源からそれを汲まなければならない。決断のすべての点において、『これは主の道であろうか』と問いなさい。」(ビュー・アソド・ハルド 1893 年 2 月 7 日)

- b. 神がわたしたちに聖書を通して個人的に語ってくださることについて、どのような確証がありますか (ヨハネ 6:63; エレミヤ 15:16; 詩篇 34:8)。

「生ける神のみ言葉は単に記されているだけでなく、語られるものである。聖書はわたしたちに語られる神のみ声であり、あたかも自分の耳でそれを聞くことができるかのように確かなものである。もしわたしたちがこれを悟るなら、なんとという畏敬の念をもって神のみ言葉を聞き、どれほどの熱心さをもってその規則を調べることであろうか! 聖書を読み、熟考することは、無限のお方との謁見としてみなされるようになる。」(教会への証 6 巻 393)

「サタンが自分のほめかしをわたしたちの思いに押し付けるとき、もしわたしたちが『主はこう言われる』を心に抱いているならば、いと高きお方の奥の間へ引き入れられるのである。」(同上)

「非常にたくさんの人々が忙しい計画に満ちていて、いつも活動している。そして尊いイエスに緊密な愛しい友となつていただく時間も場所もないのである。彼ら是一つ一つの思想や行動をこのお方に述べて、『これは主の道であろうか』と尋ねることをしない。もし彼らがそうするなら、エノクのように神と共に歩むのである。」(同上)

3. 重要不可欠な交わり

- a. なぜ聖書は記されたのですか (ヨハネ 20:31)。
- b. もしわたしたちが神のしるされたみ言葉にあるこのお方のみ声を拒むとすれば、他の手段を通してわたしたちにご自分のみ旨を伝えてくださると期待することはできますか (ルカ 16:31; 箴言 28:9)。なぜですか。

「律法と預言者とは、人間の救いのために神がお定めになったものである。……もし彼らが、神のみことばにあらわされた神のみ声に耳を傾けないなら、死人の中からよみがえった人のあかしにも心を留めはしないであろう。

モーセと預言者に心を留める者は、神がお与えになったもの以上に大きな光を求めはしないであろう。しかし、もし人々が 光を拒み、彼らに与えられた機会の価値を認めないならば、彼らは、死からよみがえった人が、メッセージを持って彼らのところにくるようなことがあっても、聞きはしないであろう。彼らは、このような証拠によっても、納得することはないであろう。なぜなら、律法と預言者を拒否する者は、心をかたくなにしてしまうので、すべての光を拒むからである。」(キリストの実物教訓 241)

- c. なぜ、わたしたちは自分たちのために神に聞くことを、他のだれかに依存することはできないのですか (エゼキエル 14:12-14; 33:14-16)。

「わたしたちは自分で真理を研究しなければならない。わたしたちのために考えるようにだれかを頼みとすべきではない。その人がだれであろうと、またどのような地位についていようと関係ない。わたしたちは自分のための完全な案内役として人を見てはならない。わたしたちは共に相談し、互いに従うべきであるが、同時に、何が真理であるかを学ぶために、神がわたしたちに与えて下さった能力を働かせるべきである。わたしたちは各々神聖な悟りを求めて神を仰がなければならない。それはわたしたちが個々に大いなる日のテストに耐える品性を発達させることができるためである。……

多くの人々は、闇と無信仰の中に漂いこんで、聖書のあら捜しをし、迷信的な作り事、非聖書的な理論、またむなしい哲学の憶測を持ち出している。しかし、聖書の徹底的な知識を求めることはすべての人の義務である。聖書研究の重要性和恩恵は計り知れない。聖書を探るときに、わたしたちの思いはキリストの無限の犠牲やわたしたちのためのとりなしを熟考するように導かれる。わたしたちがこのお方の愛を見るとき、このお方のへりくだりと苦しみを瞑想するとき、同じ自己否定と他の人の益のための犠牲の精神が、わたしたちの心のうちに灯されるのである。」(パイプ・エー 1892 年 10 月 15 日)

4. 神との直接の経験

a. なぜベレヤの人々はほめられたのですか (使徒行伝 17:10-12)。

「牧師であっても学識や才能のある人であっても、安全に自分の魂をゆだねることはできない。イエスは、聖書に精通している者とみなされていた祭司や役人たちを、聖書も神の力も知らない者と責められた。神がタラントを委ねられた人々は、その賜物を用いる責任があり、聖書を理解できる書物として研究すべきである。ひとつの聖句が過去にも試され、将来にも試され、多くの魂にとって命から命へいたる香りとなる。人が勤勉に探るとき、聖書は思いにとってきらめく宝石のような真理の新しい宝を開くのである。」(サイズ・オブ・タイム 1894 年 8 月 20 日)

「思いは用いられない限り、拡張することをやめる。嗜好は聖書を愛するように培われない限り、神のみ言葉の真理を楽しむことをやめる。生徒は、自分が探索してみた深さしか見ることができず、自分自身の狭い境界領域の向こうに横たわるものを正しく評価することはできない。しかし、その無知そのものがその人をうめぼれさせ、口数を多くし、自慢させる。若い青年男女よ、ああ、わたしはあなたがたの障害を克服する努力において活力を起こさせるために、何を言うことができるであろう。知的努力は、あなたが神の深い事柄を理解するという働きに全力を注ぐとき、よりたやすく、より満足のいくものとなる。あなたがたは各々、二級の学生にならないこと、他の人に自分のために考えてもらうことはしないことを決心すべきである。」(レビュー・アンド・ヘルド 1890 年 5 月 20 日)

b. テモテがパウロの帰りを待っている間、彼は何をするように言われましたか (テモテ第一 4:13, 15, 16)。

c. イエスはご自分のみ言葉を聞いて、それらに従う人々について、何と言われましたか (マタイ 7:24, 25)。

「キリストのみ言葉を聞いて従う人々は、岩の上に建てているのであり、嵐が来たときに、彼らの家は打ち倒されることがない。彼らはキリスト・イエスを信じる信仰を通して、永遠の命を得るのである。」(この日を神と共に 215)

5. より深く見る

- a. わたしたちはどれほど深く聖書を研究すべきですか（コロサイ 3:23; テサロニケ第一 5:21）。

「聖書を急いで読んだだけではほとんど益はなく、たとえ聖書全体を通読しても、その美しさを認めることができず、奥深いところにかくれた意味を理解することができない。わずか一節でも、その意味が心にはっきりするまで研究し、それと救いの計画との関係を明らかにすることは、多くの章を定まった目的もなく、なんらこれといった教訓も得ないで読むよりはるかに価値がある。いつも聖書を持って、機会があるごとに読み暗誦しよう。たとえば道を歩いているときでも、一節でも読んでこれを黙想すると、それが頭に残るものである。」（キリストへの道 123）

「あなたは自分の最上以下のものを何であつても神に捧げてはならない。あなたは自分が学ぶことを実践に移して、ますます良い働きをなすべきである。あなたは自分の探求を要する一つ一つの主題を測り、その問題に関する人の考えや思想を比較するだけでなく、聖句と聖句を比較し、自分が信仰のすべての点を知っていることを自分で知ることができるようにすべきである。あなたの思いに負荷をかければ、精神力を強くし、より大きな努力を払う力が増すばかりである。」（レビュー・アンド・ヘルド 1890 年 5 月 20 日）

「聖書の真理に対する理解は、研究に払われる知力によるよりは、むしろ誠実な意図と、義を熱心に追い求める心にかかっているのである。」（各時代の争闘 下巻 366）

個人的な復習問題

1. わたしたちが聖書を研究するとき、神から悟りを受ける条件は何ですか。
2. 何かを決断するとき、わたしたちはどの質問をすべきですか。
3. 聖書を探ることはわたしたちにどのような影響を及ぼしますか。
4. わたしたちは自分の聖書を知らないとき、どのようになりますか。
5. 何も学ばずに聖書の多くの章を読む代わりに、わたしたちはどのように聖書の深くかくされた真理を発見することができますか。

聖書をいかに学ぶか

「知恵の初めはこれである、知恵を得よ、あなたが何を得るにしても、悟りを得よ。」
(箴言 4:7)

「『働こうとしない者は、食べることもしてはならない』(テサロニケ第二 3:10)。この同じ規則が霊的な栄養についても適用される。もしだれでも永遠の命のパンを得たいならば、それを得るための努力をさせなさい。」(信仰と行い 49)

推奨文献：各時代の争闘下巻 358-370

日曜日

8月9日

1. 要求されている努力

a. 聖書を研究するとき、何が要求されていますか (箴言 2:1-5)。

「熱心に祈りと共に学ばなければ、知恵をうることはできない。聖書にはわかりやすく書かれていて、まちがうよちがないところもあれば、また、表面に意味があらわれていなくて、一目 見ただけでは少しもわからないところもある。聖句は聖句とよく比較して、注意深く研究し、祈りのうちによく考えねばならない。そのような研究は豊かに報いられる。鉱夫が地下深く掘り下げて、かくれている尊い鉱脈を発見するように、しんぼう強く、神のみ言葉をかくれている宝のごとく捜すならば、不注意な探求者の目にはとまらぬ価値ある真理を発見することができる。」(キリストへの道 123, 124)

b. わたしたちは自分自身や他の人によってすでに聖書の中に発見されている事柄に満足していてよいですか (マタイ 13:52; 箴言 4:18)。

「わたしたちは、自分たちが理解していると思っているがほんの表面的な知識しかもっていない数々の真理のはなはだしい広さや領域を見るために、新旧約の両方にある真理の新しい面を発見すべきである。真剣に聖書を探る人は、聖書の様々な部分に調和が存在することを発見する。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホフ・コメント] 1892 年 10 月 15 日)

2. まじめな探求者は報われる

- a. 聖書を正しく理解するために、知性よりも大事なものは何ですか (マタイ 11:25; 詩篇 25:9)。

「ときには教育と教養によって発達した知的能力を持つ人が、聖書のある箇所を理解できず、その一方では無学で理解力が弱く、思いが訓練されていないと思われる人々が意味をつかみ、前者が神秘であると宣言したり、もしくは重要でないと見過ごしたりするものの中に力と慰めを見出すことがある。これはなぜであろうか。それはわたしに後者が自分自身の理解力により頼んでいないからだと説明された。彼らは光の源、すなわち聖書に靈感を与えたお方のところへ行き、心のへりくだりをもって、神に知恵を求めるために、それを受けるのである。熱心な探求者によって発見される真理の鉱脈がある。キリストは真理を畑にかくされた宝として表された。それは地表にはない。わたしたちはそれを求めて掘らなければならない。しかし、それを探すために成功するかは、わたしたちの知的能力よりも、わたしたちの心のへりくだりと神聖な助けをつかむ信仰に依存している。」(教会への証 5 巻 704)

- b. 聖書の数々の重要な真理の理解を与えるのは、だれですか (箴言 2:6; ルカ 10:21; 24:45)。なぜわたしたちの救いにおいて、聖書の中で理解することが難しいことをすべて説明できなくてもよいのですか。

「多くの人々はあら捜しをする懐疑論者や無信仰者に応じるために、聖書の中にある難しいと見えるすべてのことを説明する責任が自分たちにあると感じている。しかし、自分たちが不完全にしか理解していないことを説明しようとすることによって、彼らは明白で理解するのが容易な点に関して他の人々の思いを混乱させる危険がある。これはわたしたちの働きではない。またこれらの難しい事柄が存在することを嘆くべきでもない。むしろそれらを神の知恵によって許されたものとして受け入れるべきである。魂の救いにとって重要なすべての点において明白なこのお方のみ言葉を受け入れることがわたしたちの義務である。そしてその原則を自分の生活の中で実践し、それを教えと模範の両方によって他の人々に教えるのである。こうしてわたしたちが神とのつながりを持っており、この方のみ言葉に絶対的な確信を持っていることが、世に対して明らかになる。信心深い生活、日ごとの高潔な模範、柔和、無我の愛は神のみ言葉の教えの生きた例証となり、それは抵抗できる人がほとんどいない聖書に有利な論拠となるのである。」(同上 705, 706)

3. ふさわしい態度をとる

- a. わたしたちが聖書を研究するとき、どのような態度をとるべきですか（詩篇 10:17; 46:10; イザヤ 57:15）。

「わたしたちは聖書の研究に、神の御前にあることを感じつつ、畏敬の念をもって望むべきである。すべての軽々しさや軽率さはわきへおかなければならない。み言葉のある部分は容易に理解される一方で、他の部分の真の意味はたやすく発見されない。忍耐強い研究と瞑想と熱心な祈りがなくてはならない。すべての生徒は、自分が聖書を開くとき聖霊の啓発を求めるべきである。そうすれば与えられるという約束は確実である。

あなたが聖書を調べるときの精神が、あなたの傍らで助けるものの性質を決定する。光の世界からの御使たちは、心のへりくだりのうちに神聖な導きを求める人々と共にいる。しかしもし聖書を不敬で、自己満足を感じながら開くならば、また心が偏見に満ちているならば、サタンがあなたの傍らにいて、神のみ言葉の率直な言葉をゆがんだ光の中におくのである。」（牧師への証 107, 108）

- b. 聖書が述べていることについて、他の人々の結論に、わたしたちはどのように応じるべきですか（テモテ第二 2:15; 使徒行伝 17:11）。

「真理は永遠であり、誤謬との戦いはただその強さを明らかにするだけである。わたしたちは自分たちと同じくらい真理を知りたいと願っていると、わたしたちが信じるのに十分な理由のある人々と聖書を吟味することを、決して拒んではならない。例えば、一人の兄弟があなたの見解と違う見解をもっているとする。そして彼があなたのところへ来て一緒に座って、聖書の光のうちにその点を調べようと申し出たとき、あなたは偏見に満たされて立ち上がり、彼の話を聞くことを拒否しながら、その見解を責めるべきであろうか。唯一の正しい方法は、クリスチャンとして座り、神のみ言葉の光のうちに提示された位置を調べることである。神のみ言葉は真理を明らかにし、誤謬をあらわにする。彼の見解を笑うことは、それが間違いであったとしても彼の立場を弱めることはないし、あなたの見解が正しかったとしてもあなたの立場を強めることはない。もしわたしたちの信仰の柱が調査というテストに耐えないようなものだとすれば、今こそそれを知るべき時である。なぜなら、自分たちの見解のうちに座し、だれもわたしたちの意見に口を挟むべきではないと思うようになることは愚かなことだからである。すべてのことを聖書のもとへもってきなさい。なぜなら、それこそ信仰と教理の唯一の規準だからである。」（パウル・エー 1892 年 10 月 15 日）

4. 神のみ言葉を理解する

- a. わたしたちは聖書のどの箇所でも、正しく理解していることをどのように確信できますか（イザヤ 28:10, 13; コリント第二 13:1）。

「聖書は、他の、より明白な聖句によって説明されるべきである。……この聖書は、すべての事においてキリスト者に必要なものであり、理解しやすく、暗黒を撃退するためのものである。われわれは、神の恵みによって、旧新約聖書各巻に含まれている神の言葉だけの純粹独特の説教を維持し、それに反するどんなものをも付加しないことを決意している。この言葉が唯一の真理である。これが、すべての教義と人生全般の確かな規準である。それは決してわれわれを失望させたり、欺いたりしない。この基礎の上に築くものは、黄泉のすべての力に立ち向かうことができるし、他方それに対抗して立てられたあらゆる人間的榮華は、神の前に崩れ落ちるのである。」（各時代の大争闘上巻 251.252）

「書物の中の書物にこそ、わたしたちの敬神的な注目を得る最高の権利がある。表面的な研究では、わたしたちに要求されていることに応じることはできないし、約束されている恩恵に浴することもできない。わたしたちは真理のみ言葉の完全な意味を学ぶこと、聖なる託宣の霊を深く飲むことを求めるべきである。」（バイル・エコー 1892 年 10 月 1 日）

「もし最もゆたかな宝を見出したいならば、真理の鉱脈を深く掘らなければならない。聖句と聖句を比較するならば、あなたは聖句の真の意味を見出すことができる。しかし、もしあなたが神のみ言葉の聖なる教えを自分の生活の規則また案内としないならば、真理はあなたにとって何の価値もない。」（今日のわたしの生涯 22）

- b. イエスはサタンの誘惑に勝利するために、この手段をどのようにお用いになりましたか（マタイ 4:6, 7; イザヤ 59:19）。

「試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思い出すことができず、聖書という武器をもってサタンに対抗することができないからである。しかし天使たちは、神の事柄を喜んで学ぼうとする人々のまわりにいて、緊急の場合には必要な真理を思い起こさせる。」（各時代の大争闘下巻 367）

5. 祈りをもって始める

- a. わたしたちはどうして聖書を聞く前に祈る必要があるのですか（コリント第一 2:11-13; ヤコブ 1:5; 詩篇 10:17）。

「聖霊の導きがなければ、わたしたちは絶えず聖句をゆがめ、それらを誤って解釈する傾向がある。……

益のない聖書研究が多くあり、そのうちの多くは明らかに害をなしている。神のみ言葉を敬神の念も祈りもなく開くとき、思想と愛情が神に固定されておらず、このお方のみ旨と調和していないとき、思いは疑いで曇る。そして聖書研究そのものによって懷疑主義が強められる。敵が思想を支配し、正しくない解釈をほのめかすのである。」（教会への証 5 巻 704, 705）

- b. わたしたちは祈りのうちにどの助けを求めるべきですか（ルカ 11:9-13）。助け主はわたしたちのために何をしてくれますか（ヨハネ 16:13; 14:13, 16, 17, 26）。

「聖書は祈りなしに研究すべきではない。聖霊だけが、理解しやすい事柄の重要性を感じさせ、あるいは理解の困難なものを曲解しないように守る。われわれが言葉の美しさに心をひかれ、その警告に戒められ、み約束によって活気づけられ、力づけられるように、心を備えさせて神のみ言葉を理解させるのが、天使たちの働きである。われわれは詩篇記者の『わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください』という訴えを、自分のものとしなければならない（詩篇 119:18）。」（各時代の犬争闘下巻 367）

個人的な復習問題

1. わたしは聖書研究に、どれほどの注目と焦点を捧げるべきですか。
2. 聖書研究の際に、知力よりも重要なものは何ですか。
3. 聖書を理解するのに御使たちの助けを、どのように保証することができますか。
4. わたしたちはなぜしばしば誘惑に打ち負かされるのですか。
5. わたしたちは聖書研究を始める前に、その都度、どのような準備をすべきですか。

識別力

「わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善といい、善を呼んで悪といい、暗きを光とし、光を暗しとし、苦きを甘しとし、甘きを苦しとする。わざわいなるかな、彼らはおのれを見て、賢しとし、みずから顧みて、さとしとする。」(イザヤ 5:20, 21)

「神の民は、人の理論を生ける神のみ言葉から見分けることができるように、明白な霊的識別力を求めて祈りなさい。彼らに聖書を研究させなさい。」(原稿リ-ス 18 巻 151)

推奨文献：各時代の希望下巻 149-157

日曜日

8月16日

1. 聞く決意する

- a. わたしたちは自分が神のみ声を聞いているとどのように確信することができますか (ヨハネ 10:27; マタイ 7:16-20, 24-27; ガラテヤ 5:22, 23)。

「よい木はよい実をむすぶ。もし実の味がまずくて無価値なら、その木が悪いのである。同じように、生活の中にむすばれる実は、心の状態とすぐれた品性とを証拠だてる。善行によって救いを買うことはできないが、しかしそれは、愛によって働き、魂をきよめる信仰の証拠である。永遠の報いは、われわれの功績によってさづけられるのではないが、それでも、キリストの恵みによってなした働きに比例して与えられるのである。

キリストは、このようにみ国の原則を説明し、これを生活の大原則としてお示しになった。この教訓を印象づけるために、彼は例話をつけ加えておられる。あなたがたは、わたしのことばをきくだけでは十分でないと、主は言われる。従うことによって、あなたがたはわたしのことばを品性の土台としなければならない。自我は移り変わる砂にすぎない。人間の学説や作り話の上に家を築くなら、その家は倒れてしまうであろう。」(各時代の希望中巻 25)

- b. イエスはご自分の御父に正しく聞いておられることをどのように示されましたか。このイエスの記述がどのようにわたしたちにも適用されるべきですか (ヨハネ 5:19, 20, 36)。

2. 歴史を眺める

- a. 主のみ声を聞くことに関して、各時代を通じて、神の教会はどのような様々な体験をしてきましたか（列王記下 22:13; 23:3; ゼカリヤ 7:11-13; エレミヤ 29:17-19）。
- b. エレミヤやダビデは自分が神のみ声を聞いたことについて、どのような個人的な証をしましたか（エレミヤ 15:16; 詩篇 119:57-60）。
- c. 神のみ声を聞くイエスの弟子たちの経験から、何を学ぶことができますか（マルコ 7:5-8; マタイ 28:19, 20）。

「彼らはキリストの教えを律法学者やパリサイ人の言い伝えや格言と区別することは非常に困難であった。彼らはラビたちの教えを神の声として受け入れるように教育されていたので、それはいまだに彼らの心を支配する力をもち、彼らの意見を形づくっていた。世俗的な考えやこの世の事物がいまだに彼らの思いの中に大きな場所を占めていた。キリストはご自分のみ国の霊的な性質についてたびたび彼らに説明されたが、彼らはそれを理解しなかった。彼らの頭は混乱していた。彼らはキリストが示された聖句の価値を理解しなかった。キリストの教えの多くは彼らにほとんど益を与えていないように思われた。」（各時代の希望下巻 155）

「弟子たちにお与えになった任務の中に、キリストは、彼らの働きのアラましを述べられたばかりでなく、彼らのメッセージもお与えになった。『あなたがたに命じておいたいっさいのことは守るように教えよ』とキリストは言われた（マタイ 28:20）。弟子たちはキリストがお教えになったことを教えるのであった。キリストがご自身の口を通してばかりでなく、旧約のすべての預言者たちと教師たちを通して語られたことがここに含まれている。人間の教えは除外されている。言い伝えや、人間の理論や結論、あるいは教会の律法がはいる余地はない。教会の権威によって定められたおきては、この任務の中に含まれていない。キリストのしもべたちは、そうしたものを教えるのではなかった。キリストご自身のことばと行為についての記録とともに、『律法と預言者』が世に与えるように弟子たちに委託された宝である。キリストのみ名は、彼らの合いことばであり、彼らを世人と区別する記章であり、彼らの一致のきずなであり、彼らの行動の権威であり、彼らの成功のみなもとである。キリストのみ国では、キリストのみ名がぎざまれていないものはどんなものでも認められないのである。」（同上 375）

3. 良心の声に聞く

- a. 使徒パウロの経験から、自分自身の良心の声に聞くことはどれほど重要ですか(使徒行伝 24:16; テモテ第一 1:19; ヨハネ第一 3:21)。
- b. もしわたしたちが良心の声に従うことをなおざりにするなら、ついにはどうなりますか(マタイ 6:22, 23; テトス 1:15; テモテ第一 4:2)。

「人が一度、神の御霊の招き、譴責、警告に注意を払うことを怠ると、彼の良心は焼印が押され、次回彼が訓告されたときに、従順に明け渡すことが前回よりも難しくなる。そして繰り返すたびにそうなるのである。良心は人間の感情の争いのただ中で聞かれる神のみ声である。それが抵抗されるとき、神の御霊は悲しむ。」(教会への証 5 巻 120)

「一つの目的に徹し、まったく神に献身することが救い主のこばによって指摘された条件である。真理を識別し、どんな犠牲を払ってもそれに従おうという、いちずでゆるがない心を持つなら、あなたは神の光を受ける。ほんとうの敬虔さは、罪との妥協をすべて捨てる時にはじまる。……

しかし自己愛によって目が見えなくなると、そこにあるのは暗闇ばかりである。『あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう』(マタイ 6:23)。この恐ろしい暗闇が、ユダヤ人をかたくなな不信仰のうちにとおって、彼らを罪から救うために来られたおかたの品性と使命を理解できなくしたのである。」(祝福の山 112, 113)

- c. 神がわたしたちに教えておられることについてわたしたちが持つことのできる印象や考えの一つ一つをどのように扱うべきですか(ヨハネ 5:39; ヘブル 4:12)。

「印象や感情は、人が主によって導かれているという確かな証拠ではない。サタンはもし疑われなければ、感情や印象を与えるのである。これらは安全な案内役ではない。すべての人は自分で徹底的に自分の信仰の証拠に精通すべきである。そして、大いなる研究とは、どのようにして彼らが自分の告白を飾り、神の栄光のために実を結ぶことができるかということである。」(教会への証 1 巻 413)

「もしあなたが何かの主題について疑いのうちにいるなら、まず聖書に勧告を求めなければならない。」(同上 5 巻 512)

4. 正直

- a. 不正直に対しては何であっても、何が神の態度ですか（箴言 19:5; 使徒行伝 5:3-5）。

「神は偽善と虚偽を憎まれる。アナニヤとサツピラは神との取り引きで詐欺行為を行った。彼らは聖霊を欺いたために、その罪はたちどころに厳しく罰せられた。」（患難から栄光へ上巻 72）

「これらの偽証者に課した厳しい罰から、神はあらゆる偽善や詐欺をどれほど深く憎み、軽蔑しておられるかをわれわれに学ばせようとされたのである。」（同上 76）

「神のためだと公言されている奉仕の多くに、自己意識と自己称揚がある。神は見せかけを憎まれる。男女が聖霊のバプテスマを受けるとき、自分たちの罪を告白する。そして、ゆるし、すなわち義認が彼らに与えられるのである。しかし、悔い改めておらず、へりくだっていない人間の知恵に頼るべきではない。なぜなら、彼らは真理を通しての義と聖化の意味に関して盲目にされているからである。人が自己義をはぎ取られるとき、自分たちの霊的な貧しさを悟るようになる。そのとき、彼らは兄弟愛の状態に近づき、彼らがキリストと調和していることを示すのである。」（この日を神と共に 326）

- b. わたしたちが聖書研究において自らに正直でないとき、何が起こり得ますか（エゼキエル 14:3, 4）。このことについて、どうすることができますか（6 節）。

「聖書を偏見なく、そしてへりくだった教えを受ける精神で取り上げなさい。そうするとき、理解力は神の御霊の印象に向かって開かれる。その信服させる力に、生活と良心を形づくっていただきなさい。」（パウル・エー 1895 年 9 月 2 日）

「あなたは自分の理論を立証するために解釈できる聖句を探す目的で調べるべきではない。なぜなら、神のみ言葉は、それがあなた自身の破滅のために聖句をゆがめることだと宣言しているからである。あなたはすべての偏見を空にして、祈りの精神をもって神のみ言葉の探求に取りかからなければならない。」（クリスチャン教育の基礎 308）

5. 柔和とへりくだり

- a. わたしたち一人びとりは、イエスからどの重要な品性の資質を学ばなければなりませんか (マタイ 11:29; 詩篇 22:26; 25:9)。

「柔和とへりくだりは、神の律法に従順なすべての人を特徴づけるようになる。」(サンズ・オブ・タイムズ 1897 年 7 月 22 日)

「もしわたしたちの意志が神聖な要求と一致していなければ、わたしたちは自分の傾向を否定し、自分の大事な願いを放棄し、キリストのみ足のあとに踏み入れなければならない。」(ビュー・アソッド・ヘラルド 1900 年 10 月 23 日)

「各々、個人的な経験を持ち、魂に手を差し伸べるために個人的な努力を払わなければならない。神は各々が、働きに全力を注ぎ、継続的な努力を通して、受け入れられる働きをなすために自らを教育するよう求めておられる。……すべての働き人は気転を用い、自分たちの能力を神の御霊の支配的な感化力の下へおかなければならない。彼らはこのお方のみ言葉を研究し、神の生ける託宣から、譴責や教えや励ましの中に自分たちに語られる神のみ声を聞くことを自分の勤めとしなければならない。そのとき神の御霊が彼らを強め、彼らは神の働き人として、宗教経験において前進するようになる。こうして彼らは一步一步より大いなる高みへ導かれ、彼らの喜びは満ちるようになるのである。」(教会への証 5 巻 576, 577)。

「もしあなたが喜んでキリストの学校で柔和と心の低さを学ぶならば、このお方は確かにあなたに休息と平安をお与えになる。自分自身の意志や自分自身の方法を放棄することは恐ろしいほど困難な苦闘である。しかし、この教訓を学ぶと、あなたは休息と平安を見出すようになる。誇り、利己心、野心は克服される。あなたの意志はキリストの意志に飲み込まれなければならない。」(SDA パイプ・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1091)

個人的な復習問題

1. どの証拠が、わたしたちが神の仰せになることを聞いたことを示しますか。
2. 過去において、神の民がこのお方に聞くことを妨げたのは何ですか。
3. わたしたちはどのようにしてよい良心を維持することができますか。
4. わたしたちが神に正直であるかどうか、どのようにわかりますか。
5. もしわたしたちの意志が神のご要求と調和していないことがわかったら、わたしたちはどうすべきですか。

頑なさに気をつけよ！

「恐れをもって主に仕え、おののきをもってその足に口づけせよ。さもないと主は怒って、あなたがたを道で滅ぼされるであろう、その憤りがすみやかに燃えるからである。すべて主に寄り頼む者はさいわいである。」(詩篇 2:11, 12)

「聖霊が心に訴えるとき、即刻これに応じることがわたしたちにとって一番安全である。……服従を延ばすことは安全ではない。あなたは二度と招きを聞かないかも知れない。」(キリストの実物教訓 258)

推奨文献：人類のあけぼの下巻 285-288

日曜日

8月23日

1. 聞くことを拒んだ王

a. 神はエジプトの王にどのように語られましたか (出エジプト記 5:1; 6:10, 11)。

「神はモーセの口によってエジプトの王に語られ、神聖な力の最も著しい証拠をお与えになった。しかし、国王は頑固にも自分を悔い改めに導いたはずの光を拒んだ。神が反逆的な王の心を頑なにするために超自然的な力を送られたのではない。そうではなく、パロが真理に抵抗したときに、聖霊は取り去られ、彼は自分の選んだ闇と不信に取り残されたのである。」(ビュー・アンド・ヘルド 1882 年 6 月 20 日)

b. 神はパロが聞くことを期待されましたか (出エジプト記 3:19)。

「神は、そのしもべを通して人間に語り、注意や警告をお与えになり、その罪を非難なさる。神は、すべての人の品性が決定される前に、そのあやまちを正す機会をお与えになるが、もしその人が正されることを拒否するならば、神のみ力は、その人の行為の傾向をほかに向けるために干渉することをしない。彼には同じことをくり返すことが容易なのである。彼は、聖霊の感化に反対して心をかたくなにしている。光を退け続けると、さらに強力な感化力であっても永続的な印象をうけつてなくなるのである。」(人類のあけぼの上巻 307)

2. 反逆の代価

a. パロの神に対する最初の反応は何でしたか (出エジプト記 5:2)。

「〔パロ〕が最初の奇跡を退けたときにまいた反逆の種は、その実を結んだ。彼が、彼自身の道を歩む危険を冒し続け、ますます強情の度合いを増すにつれて、彼の心はいよいよかたくなになり、ついに、長子のつめたい死に顔をながめなくてはならないようになった。」(人類のあけぼの上巻 307)

b. 神はどれほど根気強くパロに語られましたか (出エジプト記 7:15-18; 8:1, 2, 20, 21; 9:1-3; 13; 10:3, 4)。神に聞くようにとパロを促したのはだれでしたか (出エジプト記 8:19; 10:7)。

「主は〔パロに〕しるしと奇跡を彼の前で行うことによって、ご自分の力の証拠をお与えになった。偉大な『わたしは有る』はパロにご自分の力あるみわざを知らせ、ご自分こそ天地の支配者であられることを彼に示された。しかし、彼は天の神に反抗することを選んだ。彼は諸王の王の前にあつてさえも、光が受けられるように彼の誇り高く頑固な心を砕くことには同意しなかった。なぜなら、彼は自分自身の道を行き、自分の反逆を実行することを決めていたからである。彼は自分自身の意志を行い、神のご命令をわきへおくことを選んだ。そして彼に与えられた、エホバこそ諸国家のすべての神々にまさり、すべての博士や魔術師にまさるという証拠そのものが、ただ彼の思いを盲目にし、彼の心を頑なにただけであつた。」(闘いと勇氣 89)

c. もしパロが悔い改めたなら、神は何をされたはずですか (ペテロ第二 3:9)。

「もしパロが最初の災いにおいて与えられた神の力の証拠を受け入れていたなら、彼は続くすべての裁きを免れたのであつた。しかし、彼の頑としたかたくなさが、さらに大きな神の力の表れを必要とし、次々に災いがおこり、ついに、自分自身の長子と自分の親族の長子のつめたい死に顔をながめなくてはならないようになった。その一方で自分たちが奴隷とみなしている者たちは災害によって損害を受けることなく、破滅の天使が触れることもなかった。神はだれにご自分の恩寵が宿るか、だれがご自分の民であるかを明白にされた。」(同上)

3. わたしたちのための警告

- a. パロが神に聞くことを拒んだことから、どのような警告を受けるべきですか（ヘブル 3:12, 13）。

「一度、試みに負けた者は、二度めにはさらにたやすく屈服する。罪をくり返すたびに抵抗する力は弱まり、目は暗くなり、確信は消え去る。まかれた放縱の種はみな実を結ぶ。神は、その収穫を妨げるために奇跡を行なうようなことはなさない。『人は自分のまいたものを、刈り取ることになる』（ガラテヤ 6:7）。神の真理に対して神を恐れぬ不敵さと、愚かな無関心を示すものは、彼自身がまいたものの収穫を刈り取っているのである。こうして、多くの者は、かつて彼らの魂をゆり動かした真理を、冷たい無関心な態度で聞くようになるのである。彼らは、真理に対して怠慢と反抗の種をまき、そのような収穫を刈り取るのである。

悪の道は、変えようと思えばいつでも変えられるし、あわれみの招きを軽くあしらっても、なおくり返しその招きを感じることができると考えて、良心の声をしずめている人々は、非常に危険な道を歩んでいる。彼らは、自分の力のすべてを大反逆者サタンの側に置いておきながら、いよいよどうにもならなくなって危険に囲まれたときに、自分の指導者を変えればよいと考えている。しかし、これはそれほど容易にできることではない。罪にふけてきた生涯の体験、教育、訓練などが品性をすっかり形成しているのであるから、彼らはもはやイエスのみかたちを受け入れることができなくなっている。……あわれみのみ手がのべられて、その申し出を受け入れる機会が彼らに与えられるかもしれない。しかし、長い間拒まれ、侮られて来た光は、ついに取り去られてしまうのである。」（人類のあけぼの上巻 307, 308）

「一つの心に抱いている罪は、少しずつ品性を低下させ、すべての高貴な力を、邪悪な願望に従属させてしまう。良心から一つの予防手段を取り除くこと、一つの悪習慣にふけること、義務という高い要求を一つなおざりにすることが、魂の防壁を打ち破り、サタンが入る道を開き、わたしたちを迷わせるのである。」（闘いと争闘 114）

- b. もしわたしたちがパロの精神をもっていることを悟ったなら、どうしなければなりませんか（イザヤ 27:5）。

「わたしたちの弱さを助けるための備えは、十分に整っている。そして、キリストに来るようにとのあらゆる招きを与えられている。」（キリストの実物教訓 136）

4. 聞くことを拒む結果

- a. 最終的に、パロはなぜ神が求められたことをしたのですか（出エジプト記 12:30-32）。
- b. パロへのご自分のメッセージによって、神はだれの益となるよう意図されていたか（出エジプト記 3:19, 20）。

『しかし、わたしがあなたをながらえさせたのは、あなたにわたしの力を見させるため』である（出エジプト記 9:16）。これは、神が、この目的のために、彼を生かしておかれたということではなく、むしろ神のみ摂理が諸事件を支配して、イスラエルの解放のために定められたちょうどその時に、彼を王位につけたということである。この高慢な暴君は、彼の犯した罪により、神のあわれみを放棄していたが、それでも彼の頑迷さを通して、主がエジプトの地で驚くべきことをあらわすために彼の生命は保たれていた。諸事件のなりゆきを定めるのは、神の摂理である。神は、神の力の大きな現われにあえて逆らおうとしない、もっとあわれみ深い王を王位につけることもおできであった。しかし、それでは、主の目的は成就されなかったであろう。神の民がエジプト人のはなはだしい残酷な取りあつかいを受けることを神が許されたのは、彼らが偶像礼拝の墮落的な影響について欺かれることのないためであった。主は、こうしたパロとの交渉のうちに偶像礼拝に対する憎悪を示し、残酷と圧迫とを罰せずにはおかない神の決意を示された。」（人類のあけぼの上巻 306）

- c. もしわたしたちが神に聞きたくないならば、パロの例から何を学ぶことができますか（箴言 1:24-28; ゼカリヤ 7:11, 12; ヘブル 12:25）。

「神は〔パロに〕警告と憐れみのメッセージを送られたが、彼は天の神を認めることを拒み、このお方のご命令に従順をお捧げしようとしなかった。彼は尋ねた、『主とはいったい何者か。わたしがその声に聞き従(わ)……なければならないのか』（出エジプト記 5:2）……

神の力の追加的な証拠にエジプトの王が抵抗するたびに、彼はますます強く頑固に神へ抵抗するようになった。……これは聖霊に対する罪の明白な例である。……主は徐々にご自分の御霊を引き上げられた。ご自分の抑制力を取り除かれることによって、このお方は王を最悪の君主―自己一の手に渡されたのであった。」（争闘と勇氣 89）

5. 聞こうとしない預言者

- a. 神は何度、バラムの注意を引こうと試みられましたか（民数記 22:22-27）。
- b. バラムが神のメッセージをすぐに認めることを阻んだものは何でしたか（ペテロ第二 2:20, 21）。わたしたちに葛藤があり、ものごとが自分のやり方で進まないとき、神は、おそらくわたしたちの注意を引こうとしておられるのでしょうか。

「バラムには天の介入が見えなかった。また、神が彼の道をはばんでおられることを知らなかった。」（人類のあけぼの下巻 50）

「一つの心に抱いていた罪が、〔バラムの〕品性全体を毒し、〔彼の〕破滅の原因となった。」（争闘と勇気 114）

「人が自分の義務をはっきりと認めるとき、僭越にもそれを行うことを勘弁してほしいとの祈りをもって神の許へ行くことがないようにしなさい。彼はむしろ、へりくだった従順な精神をもって、その要求に見合う神聖な力と知恵を求めるべきである。」（同上 113）

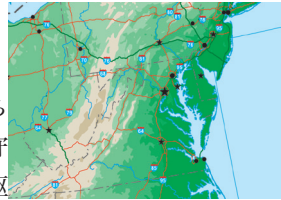
「わたしたちは経験のある人々は罪の楽しみの魅惑から安全だとみなす傾向がある。しかし、なお、わたしたちはしばしば初期の生涯が称賛に値するような人々が、罪の魅惑によって導き出され、神が与えて下さった人間性を自己満足のために犠牲にするのを見ている。しばらくの間彼らは原則の衝動と自分たちの禁じられた道へ行く傾向の間で揺れ動いているが、かつては賢明で義なる王であったソロモンの場合のように、ついには悪の潮流が、彼らの良い決意よりも強いことが立証されるのである。」（健康改革者 1878 年 6 月 1 日）

個人的な復習問題

1. 神はご自分に聞きそうにもないどれほど多くの人々に語っておられますか。
2. わたしたちはどのような方法でバロがしたように神に反抗しますか。
3. もしわたしたちが神を無視してきたなら、どうしなければなりませんか。
4. わたしたちは今日、神に対してどのように自分の心を頑なにしますか。
5. バロとバラムの類似点と相違点は何でしたか。

第一安息日献金

ワシントン D.C. にある礼拝堂のために



イエスの再臨のために準備している民としてわたしたちは、神のみ摂理の下ですべての個々人に宗教の自由を守る国—アメリカ合衆国—を築いたプロテスタントの先駆者たちに感謝しなければなりません。この国の首都はワシントン、コロンビア特別区 (D.C.) であり、その一般

地域はおよそ 65 万人の住居であり、そこには国家公務員や外交官及びその家族が含まれています。そして平日の人口は百万人以上のメリーランドやバージニアの郊外からの通勤者がいます。このため、合衆国の中で 23 番目に人口の多い都市、第七番目の大都市地域となっています。この人口の大中心は、経済的、政治的、文化的商業を伴っており、福音を広めるのに肥沃な地盤となっています。

ワシントン D.C. 地域における改革の働きは 1970 年代の後半に、ほんのわずかな教会員によって始まりました。時を経て、1980 年にメリーランド州(特別区の郊外)のテンプルヒルズに小さな家を購入し、教会の建物としました。時を経る間、この小さな礼拝堂はこの広大な地域の灯台として役割を果たしてきました。多くの兄弟たちが、テンプルヒルズに立ち寄り、この地域に牧会を築くのを手助けしてくれました。礼拝堂は長い間使用してきましたが、およそ 30 名を収容することができます。しかしながら、これは礼拝するのに小さくなりました。増え続けている教会員と定期的に出席する訪問客のために、より大きな建物が必要となっています。多くの祈りと断食の後、より大きな施設を購入する決断がなされました。戦略的にこの大都市に位置し、わたしたちが『あなたがたは行って、すべての国民を教えよ』との主の任務をよりよく果たすことのできる地域です。福音の宣布はすべての国民、部族、国語、民族に広められ、すべての人に救いの賜物のことを聞いて受け入れる機会が与えられるようにしなければなりません。

わたしたちは安息日学校の生徒のみなさんに、合衆国の首都に新しい灯台を建てるこの事業において、わたしたちを助けてくださるようお願いいたします。皆さんが惜しみなく神の御事業に献金するとき、このお方がみなさんを豊かに報いてくださいますように。この価値ある計画に惜しみなく捧げてくださることにさきだって、みなさんにお礼申し上げます。

ワシントン D.C. アメリカ合衆国のみなさんの兄弟姉妹より

疑わずに聞く

「主のもろもろのあかしを守り、心をつくして主を尋ね求め（……る者はさいわいです）」（詩篇 119:2）

「魂がいつも喜ばしい感情のうちに、自分が神に受け入れられているという曇りのない確証を得ようとすることは、多くの魂にとって破滅となる。感じなくても、このお方のみ言葉に寄り頼むことを学ばなければならない。……わたしたちが苦闘するように召されてきたことに対する疑いや恐れは、わたしたちの信仰の貴重な試練であり、わたしたちのために働き、永遠の重い栄光をあふれるばかりにわたしたちに得させるのである。」（サイン・オブ・タイムズ 1895 年 4 月 18 日）

推奨文献：キリストへの道 145-158

日曜日

8月30日

1. 疑いをどうするか

- a. 疑いに直面するとき、わたしたちはそれを扱うのに何をすることができますか（詩篇 37:3-7）。

「私たちの信仰は、外見的なものの上に築くのではなく、証拠の上に築くのでなければならない。疑おうと思う者には疑うことができるが、ほんとうに真理を知りたいと求めている人は、信仰の基礎となる十分の証拠を発見することができる。」（キリストへの道 146）

- b. なぜわたしたちはすべての質問に答えたり、すべての不明な点を解決したりできないのですか（イザヤ 55:8, 9）。

「もし、造られたものが、神とそのみわぎをことごとく理解することができて、すでにそこまで行けば、それ以上の真理の発見もなければ、知識の成長もなく、頭脳や心の発達もやんでしまう。そうなれば、神はもはや至上者でなくなり、知識と学識に到達した人類には、進歩の余地はなくなる。しかし、そうでないことを神に感謝せねばならない。」（同上 151）

2. 疑いに対する解決策

- a. 質問をし、できる限り自分の思いを知的に発達させることは、どれくらい重要ですか（箴言 4:7）。イエスはどのような模範を残されましたか（ルカ 2:52）。

「キリストの支配的な感化力の下で、人間の知性はすばらしいことを達成することができる。青年たちは知的な習得の最も高い標準に達するよう奨励されるべきである。神の恐れと知識を第一とするならば、生徒が高く上りすぎる危険性はない。神の知識、み言葉の中にあるこのお方のみ旨の理解は、人間の思いが把握することができる限り、思想に取り込まれ、品性に織り込まれるとき、有能な男女とする。神のみ言葉の研究により、わたしたちはこのお方のみ働きを知的にまた受け入れられるように果たすことができるようになる。思いは豊かにされ、大きくされ、広くされる。このように絶えずみ言葉を研究する人々は、最高の標準に向かって上へ前へと進んでいく。なぜなら、彼らは神性にあずかる者だからである。」（ユース・インストラクタ - 1899 年 8 月 31 日）

- b. わたしたちの質問への答えを見出すために、何が必要ですか（ヤコブ 1:5-8）。

「多くの人々は自分の牧師が自分たちに神からの光を持ってきてくれることを期待している。あたかもその方が自分でそれを求めて神の許へ行く面倒よりも安価な方法だと思っているかのようである。そのような人は多くを失う。もし彼らが日ごとにキリストに従い、このお方を自分の案内また相談者とするならば、彼らはこのお方のみ旨のはっきりとした知識を得、こうして価値ある経験を得ているのである。まさにこの経験が欠けているために、真理を公言する兄弟たちは他の人のともし火のきらめきのうちを歩む。彼らは神の御霊を知らず、このお方のみ旨の知識を持っておらず、したがってやすく自分の信仰から動かされてしまう。彼らは安定していない。なぜなら、自分のための経験を得るために他の人に信頼しているからである。すべてのアダムのむすこ娘たちが個々に神聖なみ旨の知識を得、クリスチャン品性を完成させ、真理によって清められるための豊かな備えがなされてきた。神はキリストに従うと公言しながら、神聖なみ旨やあるいは信心の奥義の経験的な知識を持たない種類の人々によって辱められている。」（教会への証 2 巻 644）

3. 非聖書的な伝統を拒む

- a. 神のメッセージについてのわたしたちの個人的な理解から、何が分離されなければなりませんか (マルコ 7:6-9)。

「聖書は人生の規則であり、わたしたちに将来の不死の生涯のために形成しなければならない品性を教える。わたしたちの信仰、わたしたちの習慣は、わたしたちをすべての人に知られ、読まれる生ける手紙とすることができる。人は聖書を理解できるものとするために伝統や慣習といった薄暗い光を必要としていない。それはちょうど真昼の天に輝く太陽が、その栄光を増すために地上のたいまつのような暗い光を必要だと考えるようなものである。祭司や牧師の話や言葉は、生徒を誤謬から救うために必要とされていない。神聖な託宣に勧告を求めなさい。そうすればあなたは光を得る。聖書の中にはすべての義務が明白にされており、すべての教訓が理解でき、人を永遠の命のための準備の整った者とする。キリストの賜物と聖霊の光はわたしたちに御父と御子をあらわす。正確に適用されたみ言葉は、男と女と青年を救いに至る知恵を持つ者とする。み言葉の中に救いの科学が明白に表されている……『聖書を調べなさい』、なぜなら、そこに神の勧告、魂に語る神のみ声があるからである。」(クリスチャン教育の基礎 390, 391)

「人の権威は人の署名を帯びている。わたしたちはわたしたち一般教会員が弱く混乱した人間の言葉という指揮の下へ行くことを許してはならない。神の権威が最上になければならない。そしてわたしは神の民にこのお方の権威、すなわちその神聖な起源の証拠を帯びた権威を認めるように呼び求めなければならない。」(原稿リリス 12 巻 69)

- b. わたしたちが神のみ言葉の上に伝統をおくとき、何をするように導かれますか (マタイ 23:23)。

「断食と祈りが自己義認の精神でなされるとき、それらは神にとって忌むべきものである。礼拝のための厳粛な集まり、一連の宗教的儀式、外面的なへりくだり、無理強いされた犠牲—すべてはこれらのことをする者が自分を義だと思っているという証を世に宣布する。これらの事柄は厳しい義務を見ている人々の注意を引いて、この人は天に入る資格があると言う。しかし、これはみな欺瞞である。行いがわたしたちのために天に入る資格を買うことはない。払われた一つの偉大な犠牲は信じるすべての人にとって充分である。」(セレクテッド・メッセージ 1 巻 388)

4. 個人的な確信：疑いに対する保護

- a. わたしたちはどのようにして天国への道がわかりますか（ヨハネ 14:6; 6:63; 8:31, 32）。一方、わたしたちのうち多くは、どのようにして天国を失いますか。

「わたしの心は、神が自分に与えて下さった案内書を研究してこなかったがゆえに、どれほど多くの人々が天国への道を見失うことになるかを考えるとき悲しくなる。これらの魂、すなわちご自分のみ言葉の中で神が彼らに語ってこられたみ声がありながら、天へ向かって導く唯一の道を指し示している神の与えて下さった指示書を探り、精通するだけの十分な関心がなかった人々が、救われることができるような備えは存在しない。使徒が次のように問うたのはもっともである。『わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか』（ヘブル 2:3）。わたしたちの青年は、つまらない物語に触れることはせず、かえって墮落した人類のために保証となられたキリストのみわざを熟考することによって強くなるために聖書を勤勉に探ること、すなわち自分たちの思いにもっとも栄養的で健全な食物を与えるという誓いに署名をして提示されるべきである。」（ユース・インストラクター 1887 年 8 月 31 日）

- b. 疑うことから守られるために、わたしたちは神に何を求めるべきですか（詩篇 139:23, 24）。

「わたしたちは綿密に厳しく自己を吟味しよう。バプテスマのときに入った誓いを犯してはいないであろうか。世に対して死に、キリストへと生きているであろうか。上にあるもの、すなわちキリストが神の右に座しておられるところを求めているであろうか。わたしたちがとこしえの岩に錨をおろしている綱は切れていないだろうか。滅びへ向かう流れに漂っていないだろうか。流れに逆らって自分たちの道を上へと押し進むために、何の努力も払わないのであろうか。これ以上ためらうことなく、力強くオールをとろう。そして希望のない破船をきたすことがないように、わたしたちの最初のわざをなそう。」（ビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 6 月 7 日）

「あなたの心が精錬され、清められるために明け渡しなさい。そのとき、あなたは神性にあずかる者となり、世にある欲のために滅びることを免れるようになる。そのとき、『あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、（柔和と恐れをもって）いつでも弁明のできる用意をしてい』るようになる（ペテロ第一 3:15）。キリストの平安があなたのものとなる。」（教会への証 5 巻 333）

5. わたしたちが必要としている変化

- a. 疑いに勝利するとき、わたしたちの経験は、どのようなものになりますか (マタイ 21:21, 22)。

「キリストを信じる信仰によって、品性のあらゆる欠陥が補われ、あらゆる汚れが清められ、あらゆる欠点直され、そして あらゆる美德が発達させられるのである。

あなたがたは、キリストにあつて、それに満たされている (完全である) (コロサイ 2:10)。

祈りと信仰は密接な関係をもっており、両方いっしょに研究する必要がある。信仰の祈りには天来の学問がある。人生の活動に成功したいと思えば、だれでもこの学問を理解しなければならない。キリストは『なんでも祈り求めることは、すでになえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう』(マルコ 11:24) と仰せになっている。キリストはわれわれの祈りが神のみ心になつたものでなければならないことを明らかにしておられる。われわれの神の約束なされたものを求め、そして与えられるものはすべて神のみこころをなすために用いなければならない。この条件が果たされるときに、約束ははつきりしている。」(教育 304)

- b. わたしたちの同胞信徒に対する態度はどのようになりますか (ヨハネ 17:20, 21)。

「命の君のために闘っている人々は、自分たちの戦いの武器を外に向けなければならない。空洞の方陣を組んで、自分の破壊のミサイルをインマヌエルの君の旗の下で奉仕している人々に向けてはならない。わたしたちは互いに傷つけ、中傷している時間はない。」(勝利されたキリスト 235)

個人的な復習問題

1. なぜ神は疑いの可能性を許しておられるのですか。
2. 疑いを取り除くことにおいて、わたしたち自身の責任は何ですか。
3. 疑いの一般的な源は何ですか。
4. わたしたちはどのようにしてすべての疑いに打ち勝つことができますか。
5. 疑いから自由になる結果は何ですか。

神に聞くことについての歴史

「教訓を聞いて、知恵を得よ、これを捨ててはならない。」(箴言 8:33)

「〔アダムとエバの〕時間のある部分は、……天使たちの訪問を受けたり、彼らの指示を聞いたり、楽しい瞑想をしたりすることに占められるべきであつた。」(預言の霊 1 卷 25)

推奨文献：教育 2-9

日曜日

9月6日

1. アダムとエバ

a. アダムとエバはどのように神に聞きましたか(創世記 3:8 (上句))。

「毎日の労働は〔アダムとエバ〕に健康と喜びを与え、この幸福なふたりは創造主の訪問を喜んで迎えた。神は涼しいうちに彼らと歩み、語られ、日々教訓を与えられた。」(ミストリー・オブ・ヒーリング' 240)

「創造主と顔をあわせて、心と心の交わりをすることが、アダムのとうい特権であつた。もし彼が、神への忠誠心を変えなかったなら、この特権は、永久に彼のものとなつたであろう。」(教育 4)

b. 罪が世に入った後、アダムとエバは、どのように神聖な指導を受けましたか(創世記 3:16-19)。

「御使たちはアダムに、彼の不法が死と不幸をもたらしたために、命と不死はイエス・キリストの犠牲を通して光へもたらされることを伝えた。

アダムに将来の重要な出来事、すなわち自分のエデンからの追放から洪水まで、またその先のキリストの地上における初臨までが明らかにされた。」(預言の霊 1 卷 51)

2. ノアとアブラハムは神から直接聞いた

- a. ノアはどのように神聖な指示を受けましたか (創世記 6:13-21)。ノアは神の指示にどのように応じましたか (22 節)。

「墮落した人間と天との交わりは、すべてキリストを通じて行なわれた。われわれの先祖に贖罪の約束を与えたのは、神のみ子であった。家長たちにご自分をあらわされたのは、キリストであった。アダム、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてモーセなどは福音を理解した。彼らは人間の身代わりと保証であられるキリストによる救いを待望した。これらの古代の聖者たちは、この世界に人間となって来られることになっていた救い主と交わったのであった。彼らのなかにはキリストや天使たちと顔を合わせて話したものもあった。……

預言者によって人々に語られたのは、キリストであった。……。旧約聖書を通して、われわれに語るのはキリストの声である。」(人類のあけぼの上巻 434.435)

- b. 神はアブラハムとどのように通信なさいましたか。またアブラハムの応答は何でしたか (創世記 22:1, 2, 11, 12)。

「神は、アブラハムに大きな名誉をお与えになった。天使が友だち同志のように彼と歩き、語った。」(同上 140)

「むかし、天使たちがアブラハムやモーセと共に歩いて語ったように、今もなお、彼らは、地上を訪れる。大都会の忙しい活動の中に、街頭や市場に群らがついている群集の中に、また、人生は金をもうけ、遊戯にふけり、楽しむことだと考えて、永遠の世界のことは、考えようともしない人々の中にさえ、神は なお、守護者や聖天使たちをお送りになる。このような目には見えない使者たちが、人びとのすべてのことばと行ないを見守っている。どのような事業あるいは、快楽のつどいの中にも、またはどのような礼拝のつどいの中にも、そこには目に見える聴衆のほかにも、別の聴衆がある。ときには天使たちが見えない世界をおおっている幕を開いて見せる。そして、わたしたちの心を、あわただしい生活から転じて、すべての言行を見守っている目に見えない証人たちのことを考えさせようとしている。」(キリストの実物教訓 157)

3. モーセとアロン

- a. イスラエルがエジプトを去ろうとしていた時に、神はモーセを、どのように導かれましたか (出エジプト記 3:4, 10)。

「モーセは人が友と語るように顔と顔を合わせてイエスと言葉を交わした。」(ビュー・アンド・ワールド 1886 年 3 月 2 日)

「燃える柴の神聖な表れを解明するには、最も鋭い知性を困惑させることであろう。それは幻ではなかった。それは生きた現実、すなわちモーセが自分の目で見ただけのものであった。彼は柴の中から自分を呼んでおられる神のみ声を聞いた。そして彼は、自分が神の真ん前に立っていることを悟って自分の顔を覆った。神が人間と話しておられるのであった。モーセは決して自分が見ている光景と自分に語っておられるみ声によって自分の思いに与えられた印象を描写することはできなかった。しかし、この印象は決して消されることはなかった。彼が畏敬の念を持って、次の言葉を聞いたとき、天は彼に非常に近くまで来たのであった、『わたしはあなたの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』(出エジプト記 3:6)。神が天の宮廷を後にしてご自身をモーセに表してくださり、顔と顔を会わせて『人がその友と語るように』語られるとは (出エジプト記 33:11)、なんと驚くべきへりくだりであろう。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1099)

- b. モーセは後に、どのように神と言葉を交わすようになりましたか (出エジプト記 33:18, 19)。

「神のご臨在の保証に勇気を得て、モーセはなおも近く行き、あえてさらなる祝福を求めたのであった。『どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください』(出エジプト記 33:18)。神は彼の僭越のためにモーセを譴責されたと思うだろうか。否、そうではない。モーセは無意味な好奇心からこの要求をしたのではなかった。彼には目の前に一つの目的があった。自分自身の力では、神に受け入れられる働きをすることができないことを認めた。もし神の栄光をはっきりと見る如果能够できれば、自分自身の力のうちではなく、主なる神全能者の力によって、自分の重要な使命のうちに前進できることを知っていた。」(ビュー・アンド・ワールド 1897 年 5 月 11 日)

- c. 神はアロンと意思疎通を図るために、どのような別の方法をお用いになりましたか (出エジプト記 6:13; 8:5; レビ記 10:8)。

4. イスラエルは神のみ声を認めた

- a. 神はシナイ山の近くで、どのようにイスラエル人に語られましたか（申命記 5:4, 22）。

「神は、人々がその光景をいつまでも忘れることがないように、また、彼らが律法の創始者、すなわち、天地の創造主に対する深い尊敬心をいだくようになるために、律法の宣布に力と栄光のあらわれが伴うようにされた。神は、また、すべての人々に律法の神聖さ、重要性、永遠性を示そうとされた。」（人類のあけぼの上巻 361）

- b. 彼らは神と直接話すより、何を望みましたか。それはなぜですか（申命記 5:23-27）。

「イスラエルの人々は、恐怖に圧倒された。神のおことばの恐るべき力に、彼らのふるえる心は耐えられないように思われた。なぜなら、神の大いなる正義の法則が、彼らの前に示されたとき、彼らは、聖なる神の御目にうつる罪の憎むべき性格と自分自身の不義を、これまでになかったほどにさとったからである。彼らは恐れおののいて、山から遠く離れて立った。群衆はモーセに叫んで言った。『あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞き従います。神がわたしたちに語られぬようにしてください。それでなければ、わたしたちは死ぬでしょう』 指導者モーセは答えて言った。『恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため、またその恐れをあなたがたの目の前において、あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである』。しかし、モーセは『神のおられる濃い雲に近づいて行った』けれども、民は離れたところにとどまっていて、その光景を恐れて見守っていた（出エジプト記 20:19-21）。」（同上 361, 362）

- c. 神は幾世紀を通じて、イスラエル人にどのように語られましたか（ルカ 1:70）。

「自然を通し、型と象徴を通し、また父祖たちと預言者たちを通して、神は世の人々に語っておられた。」（各時代の希望上巻 24）

「ああ、他のすべての国にまさって恵まれた国よ、もし、おまえが、おまえの神のおとずれの時を知り、平和をもたらす道を知ってさえいたら。……おまえが拒み退けたのは、単にしもべや代理人、預言者たちではなくて、おまえの贖い主、イスラエルの聖者なのだ。」（各時代の斗争闘上巻 7）

5. わたしたちの経験において、神を聞く

- a. 今日、神はどのようにわたしたちに語りたいと思っておられますか（ヘブル 1:2; ヨハネ 5:39）。

「アダムとエバは、神との直接の交わりを通して知識をうけ、神のみわざを通して、神について学んだ。……しかし人が罪を犯したために、神との直接の交わりによって学ぶことが許されなくなったばかりでなく、また神のみわざを通して学ぶことも大部分できなくなってしまった。……自然は今もなお、その創造主を物語っている。しかし自然界の啓示は、部分的であり、不完全である。しかも墮落した状態にある人間の弱い能力と限られた視力では、自然を正しく解釈することはできない。われわれは、神が聖書の中に示されたご自身に関するいっそう深い啓示が必要である。」（教育 6）

- b. 神はご自分のみ言葉について、わたしたちにどのような種類の個人的な経験をもってほしいと願っておられますか（詩篇 34:8; エレミヤ 15:16; 29:13）。

「最高の教育をうけた者にも、最も無学な者にも、はっきり示される証拠は経験という確証である。神はみ言葉の真実なこと、み約束の真実であることをわたしたち自らがためしてみるようにと言われた。……ほかの人の言葉に頼らないで、自分で味わってみなければならない。」（キリストへの道 155）

「クリスチャンは、自分が信じてきたお方を知っている。彼は聖書を読むだけではない。その教えの力を経験するのである。……」

彼は次のように証することができる、『わたしは助けを必要としていました。そしてそれをイエスのうちに見出しました。……なぜ、イエスを信じるかとお尋ねになりますか。それは、このお方がわたしにとって神聖な救い主であられるからです。なぜわたしが聖書を信じるか。それは、それがわたしの魂にとって神のみ声であることを見出したからです。』（信仰によってわたしは生きる 16）

個人的な復習問題

1. 罪はどのように、神とアダムとエバの間の伝達を変えましたか。
2. 神は初期の父祖たちとどのように通信しておられましたか。
3. モーセは燃える柴のところで何を悟りましたか。そして、彼はどのように行動しましたか。
4. 神は旧約の時代の間、どのようにイスラエルに語っておられましたか。
5. わたしたちはどのように今日神のみ声を聞くことができますか。

イエスはご自分の御父に 聞かれる

「主なる神は教をうけた者の舌をわたしに与えて、疲れた者を言葉をもって助けることを知らせ、また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、教をうけた者のように聞かせられる。主なる神はわたしの耳を開かれた。わたしは、そむくことをせず、退くことをしなかった。」（イザヤ 50:4, 5）

「イエスは、われわれと同じようにして知識を得られた」（各時代の希望上巻 61）

推奨文献：各時代の希望上巻 59-69

日曜日

9月13日

1. イエスが学ばれた方法

- a. イエスはどのように真理を学ばれましたか（ヘブル 2:10, 16-18; マタイ 7:7）。
- b. このお方の教師はだれでしたか（ヨハネ 5:20）。

「子供のイエスは会堂の学校で教えを受けられなかった。イエスの母が、イエスの最初の人間教師であった。彼女の口と預言者たちの巻物から、イエスは天の事物について学ばれた。イスラエルのためにご自身がモーセにお語りになったことばを、イエスはこんどは母のひざもとで教えられた。子供から青年へ進まれるときも、イエスはラビの学校を求められなかった。イエスはこのような学校から得られる教育を必要とされなかった。なぜなら神がイエスの教師であられたからである。……」

「イエスは、われわれと同じようにして知識を得られたのだから、彼が聖書に精通しておられたということは、少年時代にどんなにまじめに神のみことばを学ばれたかを示している。イエスの前には、神の創造のみわざというすばらしい書庫がくりひろげられていた。万物をおつくりになったおかたが、ご自分の手で地と海と空とにお書きになった教えを学ばれたのである。……イエスは植物や動物の生活、また人間の生活を研究された。」（各時代の希望上巻 61-63）

2. なぜイエスが学校に通われなかったか

a. なぜイエスはラビたちから学ぶことを拒まれたのですか(ローマ 10:3; ヨハネ 7:16)。

「キリストの時代に、青年の教育者たちは形式主義者であった。ご自分の公生涯の間に、イエスはラビたちに『あなたがたは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている』と宣言された。そしてこのお方は彼らを『人間のいましめを教として教え』ているとお責めになった(マタイ 22:29; 15:9)。伝統が、聖書よりもはるかに熟考され、詳述され、尊ばれていた。人の言葉や延々と続く儀式が学生生活の大部分を占め、神の知識を与える教育はなおざりにされた。大教師たちは絶えず小さな事柄を大きくし、宗教的な儀式において詳細をいちいち守るべきものとして規定し、その遵守を最大の義務的な事柄とした。彼らは『はつか、いのんど、クミンの什一など』を払いながら、『もっと重要な、公平とあわれみと信仰とを見のがしてい』た(マタイ 23:23)。こうして青年の視界から神の奉仕の重大な事柄をかくす大量のごみが持ち込まれた。

その教育制度の中には、魂が自ら『主はこう言われる』の力を学び、唯一神との平和と力をもたらすことのできる神聖な言葉への信頼心を得る個人的な経験の余地はなかった。形式のくり返しに忙殺されて、これらの学校の生徒たちは神と交わり、自分の心に語りかけるこのお方のみ声を聞く静かな時間を見出すことがなかった。ラビたちがすぐれた教育だとみなしていたものが、現実には、真の教育にとって最大の妨げであった。それはあらゆる真の発達に反していた。彼らの訓練の下で、青年たちの力は抑制され、束縛され、狭められた。」(クリスチャン教育の基礎 438, 439)。

「人の性質はつねに表現しようともがいている。キリストのうちにあつて完全にされる人は、まず誇りと自己満足を空にしなければならない。そのとき、魂のうちに静けさがあり、神のみ声が聞こえるのである。」(サイン・オブ・タイムズ 1902年4月9日)

b. 彼らの教えから、イエスは何を拒まれたのですか(マタイ 15:3, 9; コロサイ 2:8)。

3. 敬意を払って同意しない

- a. イエスはご自身の教会の指導者たちが福音を伝統と取替え、何千もの人々を誤り導いている時に、どのように敬意を持って耳を傾け、語られましたか（ルカ 2:46, 47）。

「もしイエスが〔ラビたち〕に教えるような態度をされたら、彼らは軽蔑して耳をかたむけなかったであろう。自分たちはイエスに教えているのだ、すくなくともイエスの聖書についての知識をためしているのだと、彼らはうぬぼれていた。イエスの少年らしいつつしみとしとやかさは彼らの偏見をとり除いた。」（各時代の希望上巻 74, 75）

- b. イエスはだれを地上におけるご自分の家族とみなされましたか（マタイ 12:50）。イエスはご自身の家族が人の伝統に従ったとき、どのように応じられましたか。

「イエスの兄弟や姉妹たちはラビたちの雑多な伝統や儀式を教えられていた。しかし、キリストご自身をこれらの事柄に関心を持つよう仕向けることはできなかった。四方で『せよ』『してはならない』が繰り返されるのを聞きながら、このお方はこれらの制限とは関係なく動かれた。社会の要求と神のご要求はつねに衝突していた。そしてその青年時代に、このお方は学識のある教師たちの慣習や決まりを直接攻撃をされなかったが、その一方彼らの学校の生徒とはならなかった。

イエスは神のみ旨から離れることを要求するような習慣は何であつても従おうとされなかった。またこのお方は神のみ言葉よりも人の言葉を高める人々の指導の下に身をおかれなかった。このお方は神を基礎に置いていないあらゆる意見や形式を思いから締め出された。これらの事柄がご自分に感化を及ぼす余地をお与えにならなかった。こうしてこのお方は、悪が思いの中に足場を得た後でそれを正そうと試みるよりも、それを防ぐ方が良いことをお教えになった。イエスはご自分の模範によって、他の人々が自らを堕落させるような場所に身をおくよう導くことはならなかった。また、このお方は不要にラビたちとの争いに巻き込まれるような立場に身をおかれなかった。それによって後に人々に対するご自分の感化力を弱めることになるかもしれなかった。また同じ理由により、このお方に無意味な形式を守らせたり、あるいは後に公生涯において決然とお責めになった格言を繰り返すよう仕向けることはできなかった。」（クリスチャン教育の基礎 439）

4. 主人から学ぶ

a. イエスの教育に責任を持っていたのはだれですか (ルカ 2:49; ヨハネ 8:28)。

「イエスのご自分の両親に従っておられたが、ごく早い時期からご自分の品性建設のために働き始められた。このお方の母親が初めの人間教師であったが、絶えず天の御父より教育を受けておられた。幾世紀にもわたってラビたちにより伝えられてきた学問的な言い伝えを熟考する代わりに、イエスは神聖な教師の下で、純潔にして墮落していない、神のみ言葉を研究し、また自然という偉大な教科書を学ばれた。……このお方は家庭生活により純潔な雰囲気をもたられた。このお方はラビたちの学校の生徒となることによって彼らの指導の下に身をおかれなかったが、しばしば彼らと接触された。そしてこのお方があたかも学ぶ者であるかのようにお尋ねになる質問は、賢人たちを困惑させた。なぜなら、彼らの慣習は聖書と調和しておらず、彼らには神からの知恵がなかったからである。このお方が一般的な習慣に従わないことを不快に思っている人々にさえ、このお方の教育は彼ら自身の教育よりも高い種類のものに思えた。」(クリスチャン教育の基礎 439, 440)

b. わたしたちは何を学んでいるべきですか (コロサイ 3:1, 2; マタイ 11:29)。わたしたちはどのように教育されることが出来ますか。

「どの子供もイエスと同じように知識を得ることが出来る。われわれがみことばを通して天父をよく知ろうとつとめるとき、天使たちがそばにきて、われわれの知能が強められ、われわれの品性が高められ、洗練される。われわれはますます救い主に似る者となる。またわれわれが自然の美しさと雄大さをながめるとき、われわれの愛情は神のもとへひきよせられる。みわざを通して無限なる神と接触することによって、心はおそれに満たされるが、魂は活気づけられる。祈りを通して神とまじわることによって知的道徳的能力が発達し、霊的な事物について思想を養うときに霊的な能力が強められる。」(各時代の希望上巻 63)

「青年たちが、ただ単に他人の思想を反映する者とならないで、自ら思考する者となるように、彼らを訓練することが真の教育の働きである。人が書いたり、言ったりしたことばかりに、生徒の研究を閉じこめないで、彼らを真理の泉、すなわち自然と聖書の中に開かれている広い研究の分野に導かなければならない。」(教育 7)

5. わたしたちも成功することができる

- a. イエスはどのようにご自分の生涯の働きのために、準備されましたか（イザヤ 50:4, 5）。

「神との交わり、このお方への完全な明け渡し、また当時の誤った教育や習慣や伝統にもかかわらず神のみ言葉を果たされたことが、イエスのご生涯を特徴づけていた。」（クリスチャン教育の基礎 440）

- b. 成功するために、わたしたちはどのように研究すべきですか（イザヤ 55:6, 7）。

「つねに忙しい活動のうちにあって、何か外面的な行いによって自分たちの優れた敬神を示そうとすることが、ラビたちの評価によれば、宗教のすべてであった。同時にその継続的な神のみ言葉に対する不従順によって、彼らは主の方法をやがめていた。しかし、神が背景におられる教育は、神を求めるように人々を導く。……無限は今も、これからも決して、人間の組織や人間の計画に縛られることはない。すべての魂は神のみ旨と方法の知識を得るために個人的な経験を持たなければならない。神の訓練の下にいるすべての人のうちに、世とその習慣や慣わし、あるいはその経験と調和していない生活があらわれるのである。聖書の研究を通して、また熱心な祈りを通して、彼らは自分たちへのこのお方のメッセージを聞くことができる、『静まって、わたしこそ神であることを知れ』（詩篇 46:10）。他のすべての声が静まるとき、地上の関心をすべてわきへよけると、魂の静けさが神のみ声をさらにはっきり聞こえさせる。ここで、このお方のうちに休息が見出されるのである。」（同上 440, 441）

個人的な復習問題

1. イエスは、どのように学ばれましたか。
2. このお方の時代の教育制度は、何が悪かったのですか。
3. そのとき、イエスはどのように当時行き渡っていた習慣の多くに同意しておられないことを示されましたか。
4. わたしたちはどのようにして知的能力を向上させることができますか。
5. どのようにして、イエスが成功されたように、わたしたちも成功できますか。

「主よ、お話してください」

「わが民よ、聞け、わたしは言う。……わたしは神、あなたの神である。」(詩篇 50: 7)

「いつでも、『しもべは聞きます。主よ、お話してください』という準備をしていない(サムエル記上 3:9)。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1898 年 7 月 26 日)

推奨文献：信仰と行い 121, 122.

日曜日

9月20日

1. 主のはしためマリヤ

- a. 神がマリヤにメッセージをお送りになったとき、彼女の態度はどのようなものでしたか(ルカ 1:38)。

「ナザレのおとめマリヤの子供のような美しい信仰〔に注目しなさい〕。」(各時代の希望上巻 96)

- b. だれもまた、マリヤの信仰を強めるためにキリストについて預言しましたか(ルカ 1:41-43, 67-69; 2:25-32, 36-38)。だれがイエスを信じる彼女の信仰を壊そうとしましたか。

「マリヤはたびたびイエスに忠告して、ラビの慣習に従うようにすすめた。だがどんなにイエスを説得しても、神のみわざについて瞑想することと、人間の苦しみやものの言わぬ動物の苦しみさえやわらげようとなさるイエスの習慣とを変えることはできなかった。祭司たちと教師たちがイエスを制御することにマリヤの協力を求めると、彼女はひどく当惑した。しかしイエスがご自分の行為を正当づける聖書のことばをお示しになると、彼女は心に平安が与えられた。

イエスの兄弟たちはイエスが神からつかわされたおかたであると信じなかったもので、マリヤは時々イエスと兄弟たちの間にあって迷うことがあった。しかしイエスが神のみ子であるという証拠は十分にあった。彼女はイエスが他人の幸福のためにご自分を犠牲になさるのを見た。イエスがいらっしやると家庭の中には一段ときよい雰囲気(ふんいき)が生じ、イエスの生活は社会の各階級に働くパンだねのようであった。」(同上 90, 91)

2. 神の僕サムエル

a. 毎日、どの経験がわたしたちの模範となるべきですか (サムエル記上 3:7-10)。

「神のみ声を聞くために、あなたがたがいるべき場所に身をおくとき、あなたがたは毎日このお方のみ前に来て、『しもべは聞きます。主よ、お話してください』『主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか』と言うようになる (サムエル記上 3:9; 使徒行伝 9:6 英語訳)。(世界総会日報 1891 年 3 月 20 日)

「わたしたちは神のみ前に自分の心をへりくだらせる必要がある。わたしたちは不注意な態度ではなく、かえって注意深く敬神的な態度で待つ必要がある。」(原稿Ⅲ-ス 19 巻 28)

b. わたしたちは自分の持っている一つ一つのタラント、機会、また資源をどのようににみなすべきですか (歴代志上 29:12-14)。何がこの態度を破壊し、わたしたちの霊的な経験を損なうことができますか。

「どんなに大きくても、どんなに小さくても、あなたのタラント、あなたが持っているものは、ただ信任のうちにあずかっているにすぎないことを覚えていなさい。こうして神はあなたに忠実であるかを試す機会を与えて、あなたを試しておられるのである。このお方にあなたは自分のあらゆる能力のゆえに負債を負っている。このお方にあなたの身体、思い、魂の力は属しており、このお方のために、これらの力を用いなければならないのである。あなたの時間、あなたの感化力、あなたの能力、あなたの技能—これらはみな与えて下さったお方に会計報告をする責任がある。熱心な努力を払うことによって、人類を引き上げるための主の偉大なご計画を実行しようと努める人は、自分の賜物を最善に用いる。

あなたが始めた働きを、勝利に次ぐ勝利を得るまで、辛抱強く行いなさい。自らを目的のために教育しなさい。あなたがますます偉大な善へ到達できるように、つねに高い標準を視野に入れていなさい。こうして神の栄光を反映するのである。」(ユース・インストラクター 1910 年 1 月 25 日)

「自己はわたしたちが想像するよりもはるかにわたしたちの宗教経験に関わりがある。自己が十字架につけられるとき、すなわち頑固な意志が征服されるとき、そのとき心の言葉は次のようになる。『わたしの意志ではなく、あなたのみこころがなされますように、ああ、わたしを所有し、わたしが仕えている神よ』『しもべは聞きます。主よ、お話してください』。だれも、定まった星のように冷たく、動かない者となることはない。この利己的で世間的な尊厳を維持することはもはやない。そこに純潔、上昇、高潔が美しく交じり合う。すなわち上からの知恵であり、イエス・キリストの柔和とへりくだりである。無垢な小羊がキリストを表すものとして選ばれた。」(原稿Ⅲ-ス 12 巻 191)

3. サムエルのように

a. すべてのクリスチャンにとって、成功の源は何ですか（コリント第一 15:10）。

「すべての働きの成功は、神の祝福にかかっている。もし主があなたと共に働かれるならば、あなたはこのお方があなたに定めてくださったことをなすことができる。神と共に、一人が千人を追い、二人が万人を倒すことができる。しかし、あなたがパリサイ主義の精神を維持している間は、神の御霊はあなたと共に働くことはないし、働くことができない。なぜなら、あなたは自分がまったくこのお方により頼んでいると感じないからである。あなたがキリストの学校で学ぶ者となるとき、あなたは幼子の単純さと柔和を持つようになり、喜んで自分の兄弟姉妹と相談するようになり、神からの助けを求めて祈るようになる。あなたの耳はそのときに開かれ、そして心から次のように言うことができるようになる、『しもべは聞きます。主よ、お話しください。』」（エルン・G・ワット 1888 年原稿 410）

b. どのクリスチャンにとっても失敗の源は何ですか（箴言 12:15; イザヤ 5:20）。

「神はあなたにご自分の御霊を注ぎたいと思っておられる。しかし、あなたが自己でいっぱいの中には、こうすることがおできにならない。自己が死ぬとき、あなたは神の御霊のよみがえらせる感化力を感じるようになる。神の民は一致を求めるよう命じられている。……今は利己的で頑固な精神にふけるために、疎遠や不和になっている場合ではない。あなたは自らを制するであろうか、あるいは自分の頑固で屈しない性癖を自分の忠実な高潔さの証拠だとみなそうとしているであろうか。神はあなたがパリサイ人のように盲目になり、善を悪とし、悪を善とすることを禁じられる。神の御霊が働いているというに関して、あなたは今までもっていた証拠以上に大きな証拠を得ることはない。人が疑う口実をすべて取り除かれるのは、主のご目的ではない。このお方は偏見のない思いが正しい決断を下すのに十分な証拠を与えてくださる。しかし、もしあなたが自分自身の道を行くと決心するなら、もしサウルのように誇りや心の頑なさのために、また自分自身の霊的な欠如を知らないために自分の進む道を変えようとしなければ、あなたは光を認めることはない。サウルと共に『わたしは主の言葉を実行しました』と言うようになる（サムエル記上 15:13）。」（同上 410, 411）

4. 訓告

- a. 神からの勧告に従う代わりに、人間の論拠に頼る人々に何がおこりますか（箴言 1:24-26）。

「イスラエルに述べられた警告の厳粛な言葉を思うとき、わたしたちは想像のうちに大いなる白い御座の前に連れて行かれる。そこで全宇宙の会衆のいるところで、すべての人は本人の行いにしたがって裁かれるのである。……

そのときはだれも神をさげすみ、捨てた人々の愚かさに同情する者はない。だれも彼らの悲嘆を和らげる者はない。彼らは、都合と世的な楽しみの道に従うために、自分の真実で愛する友を捨てたのであった。彼らは時には神に戻ろうとした。しかし、世がその愚かさと欺瞞をもって、注意をすっかり奪ってしまった。軽率な娯楽、衣服の誇り、食欲の放縦が心を頑なにし、良心を鈍らせたために、真理の声が聞かれない。義務はさげすまれた言葉である。無限の価値のある事柄が軽く評価され、ついに心は、人のためにこれほどのものを与えて下さったお方のために犠牲を払いたいという願いをすっかり失う。しかし、収穫の時に、彼らはまいいたものを刈り取らなければならないのである。……

『その時、彼らはわたしを呼ぶであろう、しかし、わたしは答えない。ひたすら、わたしを求めるであろう、しかし、わたしに会えない。彼らは知識を憎み、主を恐れることを選ばず、わたしの勧めに従わず、すべての戒めを軽んじたゆえ、自分の行いの実を食らい、自分の計りごとに飽きる』（箴言 1:28-31）。」（サインズ・オブ・タイムズ 1881年8月18日）

- b. 神に聞く人々への約束は何ですか（箴言 1:33）。

「わたしたちははたして主イエス以上に確かな案内役を見出すことができるであろうか。真の宗教は神のみ言葉のうちに具現化されており、思想、言葉、行いにおいて聖なるお方の導きの下にあることによって成り立っている。道であり、真理であり、命であるお方は、へりくだった真剣で真心からの探求者を受け入れ、従ってきなさいと言われる。このお方は彼を聖潔と天国への狭い道へ導かれる。キリストご自身が大いなる代価を払ってこの道を開かれたのである。わたしたちは闇の中を道々つまずくままに放っておかれることはない。イエスはわたしたちの右側にいて、『わたしは道であ』と宣言される。そして完全に主に従うと決心するすべての人は王路へ、いやそれ以上の、主の贖われた者たちが歩むためにしかれた道へと導かれるのである。」（ビュー・アノド・ハラド 1906年3月29日）

5. 訴え

a. わたしたちはダビデの祈りから何を学ぶことができますか（詩篇 119:33-38）。

「神に献身することを拒む罪人は別の力の支配下にあり、他の声を聞いており、そのほめかしはまったく違う性質のものである。激情が彼を支配し、その判断力は盲目にされ、理性は失脚し、衝動的な願望が彼をあちこちと揺さぶる。真理は彼に対してほとんど感化力を持っていない。なぜなら、人間の性質には、真理の源なるお方から離れると、絶えず神のみ旨の方法に反するものがあるからである。身体的、精神的、道徳的存在は、みな性急な衝動の支配下にある。愛情は不純になり、賢く発達させるために人に委ねられたすべての機能は堕落する。人は罪とがのうちに死んでいる。傾向が動き、激情が支配権を握り、その食欲が自分の気づいていない権力の支配下にある。彼は解放について、行動の自由について語るが、最も悲惨な奴隷のくびぎのうちにいるのである。」（レビュ・アント・ハルト 1891年2月17日）

b. わたしたちは敵に打ち負かされることをどのように避けることができるか説明しなさい（ヤコブ 4:7-10; ペリピ 4:13）。

「クリスチャンだと主張する人々は絶えず外からの自分自身を超えた力を必要としている。彼らは目を覚まして祈り、自らを神の守りの下においている必要がある。さもなければ敵に打ち負かされてしまう。クリスチャンはしもべが自分の主人を、またはしめが女主人を見ているように、神を見ながら、『主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか』と言わなければならない（使徒行伝 9:6 英語訳）。」（同上）

個人的な復習問題

1. わたしたちはマリヤから何を学ぶことができますか？
2. わたしたちは幼い子供の時のサムエルの経験から何を学ぶことができますか。
3. わたしたちは自分がキリストの学校で学ぶ者であることをどのようにあらわしますか。
4. わたしたちはどのように王路を歩むことができますか。
5. わたしたちはどのように神に聞き、自分の生活でこのお方の力を得ることができますか。

第一安息日献金



7月4日

ハンガリーの教会の改築の
ために
(4 ページ参照)

8月1日

伝道学校のために(25 ページ参照)



9月5日

ワシントン D.C. にある礼拝堂の
ために (51 ページ参照)